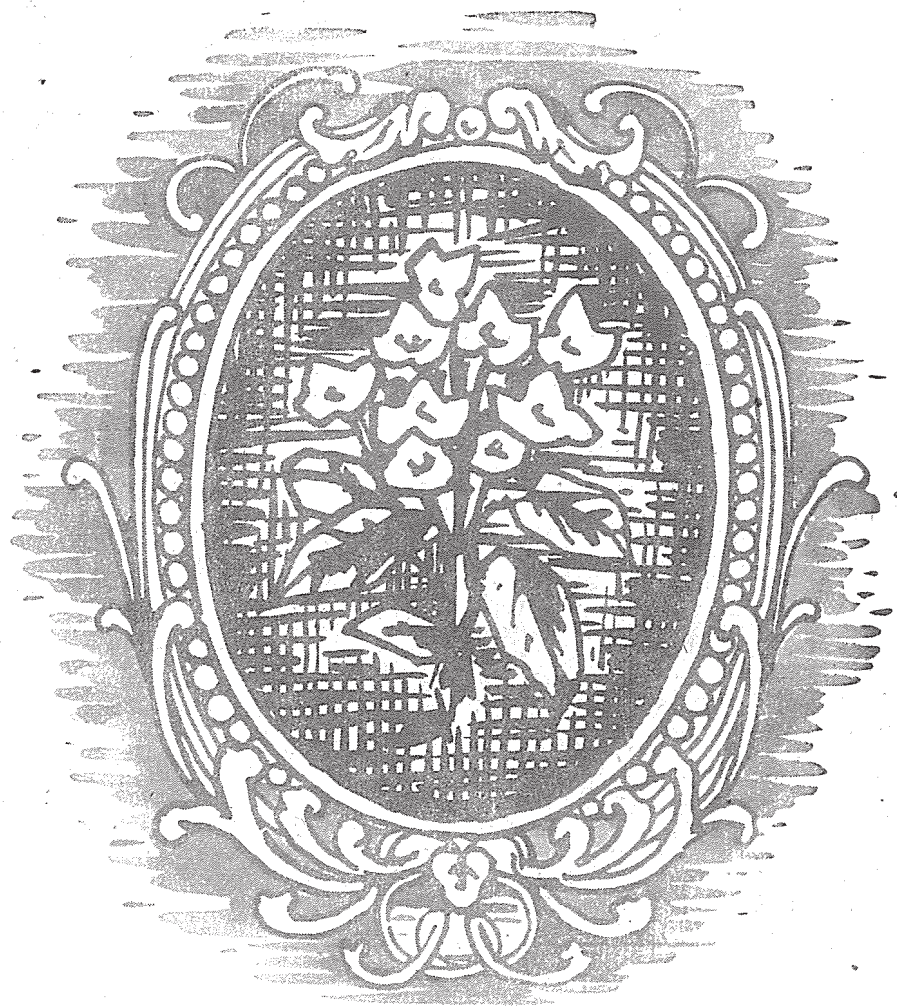


# 新西大學生報

第 百 八 十 號

昭 和 十 五 年 六 月



關 西 大 學 學 報 局 發 行

大阪商科大学 教授 陶山誠太郎 著

新刊

# 軍需品工場の原價計算

菊 判 上 製  
三 百 十 五 十 頁  
定價 三 圓 五 十 錢  
送料 十 圓 四 十 錢  
圖書式 數 十 種  
圖解約 十 種

經濟統制と計算的秩序とが不可分の關係にあることは議論の餘地がない程である。来る七月一日より陸軍軍需品工場に對し、陸軍省令に依る原價計算要綱を強行して、適正なる調辨價格を求めんとする。著者は斯界の一權威者なり。茲に軍需工場の爲に要綱を中心として独自の解説を試む請ふ閱讀あらんことを。

一 容 内 書 本 一

- はしがき 第一、原價計算を行はざる工業會社の會計は信頼し得るや A、商業會計と工業會計との相異 B、工業會計に於て損益計算を行はんとせば製品、仕掛品の原價計算は絶対に必要なり
- 第二、統一原價計算制度 A、業種別統一原價計算制度 B、陸軍々需品工場專業場原價計算要綱は統一原價計算制度ではない、附「要綱」の補昭權認容條項に付いて C、個別軍需工場の原價計算準則又は原價計算便覽
- 第三、原價計算の二方法 A、原價計算とは何ぞや B、個別原價計算方法、附勘定組織 C、綜合原價計算方法、附勘定組織
- 第四、原價の構成要素 A、原價種類 B、製造原價要素 C、一般管理及販賣要素 D、非原價項目
- 第五、記帳手續 A、材料仕入記帳手續 B、材料の消費計算記帳手續 C、賃金計算記帳手續 D、經費計算記帳手續 E、原價計算記帳手續 F、一般管理費及販賣費計算記帳手續
- 第六、諸帳簿書類及様式、附録 一、米國工具製造組合の統一原價計算便覽に於ける諸表、二、陸軍々需品工場專業場原價計算要綱 三、海軍々需品工場專業場原價計算準則案

著 授 教 山 陶

會 計 學	會 計 監 查 總 論	企 業 豫 算 統 制 と 標 準 原 價 計 算	經 營 の 分 析 と 合 併 に 於 け る 諸 計 算
送料 二圓 二十錢	送料 一圓 二十錢	送料 一圓 五十錢	送料 一圓 五十錢

東京 電話 八二二二 神田  
駿河 電話 八二二二 田  
中央 電話 八二二二  
前學大

## 大 同 書 院

大阪 電話 三二五  
北區 電話 三二五  
梅田 電話 一六七  
田新 電話 七五五  
道新 電話 七五五

## 目次

- 國體の本義……………今泉定助 (一)
- 續なかしなの旅……………川上敬逸 (七)
- 學内報…………… (二)
- 日本文化講義—人事異動—がくほう抄
- 校友…………… (三)
- 大阪支部—東京支部—大連支部—新京支部—  
—東京千里山會—憲法會—會員消息
- 戦線だより…………… (三)
- 學會消息…………… (八)
- 千里山法律學會—經友會—商業研究會—英  
文學研究會—基督教青年會
- スポーツ關大…………… (三)
- 野球部—ホッケー部—弓道部—射撃部—フ  
エンシング部—拳闘部—山岳部
- 新刊紹介……………越智 弘 (四)



## 國體の本義

神宮奉齋會々長 今泉定助

本稿は去る六月三日天六學舍講堂に於ける専門部本年度第一回日本文化講義の講演速記である。先生の御校閱を得る暇なく、或は御講演の御趣旨に違へる點なきを期し難く、すべては編輯者の責である。

只今御紹介を得ました今泉であります。皆さんに國體に關します一場のお話を申し上げますことは自分の頗る欣快となすところでありませう。海に隔れた人間でありますから、お話を申し上げることも極めて固陋なお話に止まることと思ひますが、その點は豫じめ御諒解を得て、中につきまして一つでもあなた方の御参考になり得ることがありますれば、自分の非常に満足するところでありませう。

「國體の本義」といふ題であります。御國體のことにつきまして詳しく申し上げますれば長い時間を要するのでありますが、極めて簡単に申し上げて見たいと思ふのであります。

國體の説き方はどの點から説きましても宜しいのであります。どういふ點からお話申上げればあなた方に一番お判り易いのでありませうか——國土といふものから論じて見る、或は國の出來方といふものから國體を説いて見る、或はまた日本の外國に獨特なる、特

別なる事柄だけを並べて見るのが國體を説く上に於て一番いゝか——幾度申述べて見てもどれが一番ハツキリするかといふことは自分にも實はよく判らんであります。何遍國體論をやつて見ても自分でも満足せん位でありますから、お聞きになるあなた方に對しては尙更御不滿のことであらうと思ひます。どう致しましても國體の中心は、天皇であらせられる。天皇といふことが判れば大體國體が判るのであります。天皇といふことが實は判らるのであります。さう申上げますと、天皇といふことは誰でも判つてゐるとお考へになりませうけれども、深く考へますと、天皇といふことが誰も判つて居らん、また從來の教育に於てはどこでも、天皇といふことを餘り詳しく教へてゐない。教へれば却て不敬にでも當るかの如く考へて居つて天皇といふことをよく教へない。日本の、天皇といふことが判りませんとやつぱり國體といふことが判らんことになる、それです。天皇といふことを説くといふことが一番國體に關してはいゝのであります。併し先刻この席で「天皇の御本質」といふお話を申上



げた、それですからそれとやつぱり同じやうな事をまたお話し上げるやうなことになります。無論お聞き下さるあなた方はお違ひになるのでありませうが、話す方の人間も同じ所で同じやうな事をお話するといふことも頗る變な事でありませう。殊に私はお話ししたことをその通り繰返すなどといふことは出来ない人間で、何遍お話ししてもやつぱり別なやうな事になるのでありませう。それですからやはり 天皇の事を少しお話しして見ませう。

日本の 天皇といふ方は外の國の皇帝とか王とか大統領とかいふものとは全然お違ひになつたお方であるといふことは申すまでもありません。外の王、皇帝さういふ人は皆自分の力を以て占領したのであるか、或は人民から推薦推戴されて主権者になつたか、凡そこの二つであります。ところが日本の 天皇はどつちでもない。御自分から國家を占領して征服して 天皇におなりになつたのでもなければ、また我々國民から推薦されて 天皇におなりになつたのでも勿論ない。その點は全然外の國柄とは違ふのであります。例へば 天身御自身のお體がだん／＼大きくなつたやうなのが日本であります。天皇のお體が大きくなつて國民も現はし、國土も現はしたやうなのが日本の 天皇であります。それですから國土も國民も 天身の擴大である。かういふ風になると 天皇のお體、または 天身から國家も國民も出來た、日本の出來たのはさういふ風にして出來たのであります。外の國家とは逆であります、外の國家は王の方から國民を征服して王になつた、或は國民から推薦されて王になつたのであ

りますからその關係はまるで違ふのであります。外の歴史では土地と人民と主権者、これを國家の三要素と申します。日本を除く他の國家は皆それでありませう。國土のあるところへ人民がどこからか集まつて来て、弱肉強食では治まらんといふので治める人を選んだ、それですから三つとも寄木細工で出來てゐる。日本では三要素が一本で出來た。それはどういふわけであるかといふと、國土を生んだ神様は何神様であるか——伊邪那岐伊邪那美の神様である。國民を生んだのはどなたであるか——やはり伊邪那岐、伊邪那美の二神である。主権者を生んだのはどなたであるか——やはり伊邪那岐、伊邪那美の二神である、そのお子様の天照大神が歴代の 天皇の御親である、それですから國土も國民も主権者たる 天皇も一廻に出來た。外の國のやうに國土があるところへどこからか鳥合の衆が集まつて来て強い者勝りでは治まらんからといふので治めて貰ふために主権者を擡へたといふのでは固よりない、日本の歴史は全然他國の歴史と違つたものである。それを西洋の三要素の説き方を以て日本の國體を説いたり、日本の憲法もこの理窟で憲法を説いたり致しますから本當の事が決して出て來る筈がない、全然違つてゐるのであります。それを日本ばかりそんな事はあるまい、西洋各國皆三要素で出來てゐるのであるから、日本もさうであらうといつて日本の歴史を説かうとする、日本の憲法を説かうとするのが間違ひの本である。國體が全然違ふのである。

日本は今申しますやうに國土を生んだ神様も國民を生んだ神様も 天皇を生んだ神様もみんな同じ神様で

あります。そこから出て來てゐる、それでありませうから結局 皇室を大きくしたものが國家である。皇室が本で、國家は 皇室の大きくなつたものである。それですから本當の事をいへば日本より以外に國家といふものはない筈であります。日本だけは 皇室、皇家の大きくなつたものが國である。皇室といふ家の大きくなつたのが國家である、その通りあなた方も小學校以來お習ひになつてゐる。外では家に對するものを孝といひ、國に對するものを忠といふ、ところが日本では 皇室の大きくなつたものが國でありますから家と國とは同じものであります、家國一致でありますから忠孝一本であります。外の國では家は家で別であり國は國で別でありますから、家に對しては孝でなければなりません。國に對しては忠でなければなりません。只今申すやうに 皇室の大きくなつたのが國である。家が主になつて大きくなつたのである、家と國とは一致である。家國一致である。家と國と同じものであるから忠と孝と一本である。家國一致、忠孝一本、小學校ではさう教へてゐるのであるから、これはあなた方もさうお習ひになつてゐる。全然日本だけは他の國家と出來方が違ふ、それでこれを總稱して 天皇と申上げる。たゞ外のイギリスの皇帝とか他の國の皇帝などといふものとは全然違ふ、それはどうして違ふかといふと、イギリスの皇帝にしても人から推薦されて皇帝になつた人であります。ところが日本の 天皇はそれと全く反對であります。天皇から國家も國民も派生したのである、全然違ひませう。彼等は人から選ばれて、推薦されて、皇帝になつた人であります。或は他國を征服し

て皇帝となつた人があります。日本の 天皇はさういふ風な他國を征服したものでなければ、人から選ばれたものでもなくして、御自分のお體がだん／＼大きくなつて國土も現はし國家も現はして 天皇とお成りになつた方でありませう。内から／＼成長發達したものが日本の 天皇といふお方でありませう。外から選ばれたり、外から代表したりしたのぢやない。内から／＼と出て來た國土であり、國民であります。それであるから君民一體である。君國一體などと申します。天皇と我々と一體である。また 天皇と國土とは一體である。そこで 天皇と申上げるのは外の皇帝とか大統領といふものとは全然違つた意味を持つたものであつて天皇と申上げるべきは我々國民が全部 天皇の後に居る。國民を離れて 天皇なし、天皇を離れて國民國家がある筈がない。さういふ事を考へて居らなければならぬ。外の王とか皇帝とかいふものはたゞ國家を代表するといふ位に過ぎない。外から選ばれて君主になつたり、皇帝になつた人々であるから、代表するといふに過ぎない。日本の 天皇は代表なんてことで現はせない。私はいつでもかういふ言葉を用ひて居ります——包容表彰——天皇と申上げる時は國民も國家も財産も内閣も軍隊もすべてのものとを包容表彰遊ばす方を 天皇と申上げる。たゞ國民を代表するといふやうなものではない。今申上げましたやうに内から／＼と大きくなつて、國民も 天皇から派生し、國土も 天皇から現はして、御自分の成長發達なされたものが國土でもあり、國民でもありますから、内から／＼と包容表彰しておいでになる。外の君主とか皇帝といふ人はたゞ選ばれた人でありませうから、外から代表するに過

ぎないのでありますけれども、日本の 天皇といふ方は内から／＼と國家國民を本當に御自分から現はして國民も國土も包容して御自分で 天皇と仰せられてゐる。國民國土 天皇といふものは不離一體で切離すことは出來ないのであります。それが外の國家と極めて違つた點であります。またすべてがさうなつて居ります。例へば三種の神器なら三種の神器といふものでも外の皇帝とか王といふ人であるならば祖先から受けた自分の寶物である。三種の神器は祖先から 天皇がお受けになつたのであるから、天皇だけの御寶物であるやうに外の君主ならば思ふが、日本の天皇といふのではない今申しますやうに 天皇といふお名前を申上げる時は國土も國民も皆その後に附いてゐるのであるからして、天皇の御寶物といふものは決して 天皇お一人の寶物にあらずして、我々國民も三種の神器を寶物としてゐるのであります。それを忘れては國體が判らなくなる。天皇と申上げるのは決して皇族の御一族のことを申すのではない。國家も國民も全部を表彰遊ばされた方を 天皇と申上げるので、國民國土がなければ 天皇とは申上げない。それが外の國家と一番大切な違ふところでありませう。外のものはたゞ代表するだけに過ぎないけれども、日本の 天皇は御自分のお體からお現はしになつてゐるのであります。國民や國土と申します。それを君民一體といふことは恐れ多いから一君萬民がよからうなどといつてよく一君萬民といふ言葉を使つてゐる人がありますけれども、それらは日本の國體を知らん者のいふことで、一君萬民なんてことは王ならば王だけが一人高い所に居つて、萬民は遠

く離れた所に居るやうなことになるませう。一君萬民といふのは日本の姿でない。英國などの姿を現はす言葉であります。日本はどこまでも今申すやうに君民一體の國家である。天皇の後は我々國民がいつでも居るのであります。それを忘れてはいけません。それですから三種の神器といふものは、御祖宗からお受けになる 天皇のお寶であると同時に、國家國民の寶物でもある。それだから現在に於てもその通りを實行してゐるのであります。天皇のお寶である三種の神器をあなた方も年々歳々年の始めにはお祭りするのであります。あなた方の御家庭でも必ず鏡餅をお飾りでありませう。餅を鏡などといふわけはない、それを鏡餅といふのは何であるかといふと、三種の神器の鏡を表象してゐる。それでお鏡といふ。それからまた袖子を用ひたり橙を用ひたり、所によつて致します。それは何であるかといふと、玉を現はす、菱餅を飾るのは劍を現はしてゐる。家毎に内には三種の神器を飾つて皇室を壽ぎ、自分の家を壽ぎ、門外では門松と稱して神籬を立てて、朝廷を壽ぎ奉り、自分の家を壽ぐ、それですから古來その通りに朝廷の御寶物は國民にも寶物であるといふので我々民族は言はず語らずの間に實行して來てゐるのであります。

それからまた三種の神器と一緒に、天孫降臨の時に齋庭の穗といふものを賜はつた。齋庭の穗といふのは綺麗な塙所に作つた穗といふことであります。それは三種の神器は精神的にお下しになつたもので、齋庭の穗は物質的にお下しになつたものであります。國民を救済するといふことは精神だけで救済の出來るもの

でない。必ず物質と精神と両面から救済しなければ本當の國民を救済するといふことは出来るものでないといふことを、天孫降臨の時から指示になつたのでありまして、精神的に救ふには三種の神器、物質的に救ふには齋庭の穂であります。その穂につきましては佐藤信淵といふ先生があります。秋田の人で平田篤胤翁とその名を等しくする人であります。平田篤胤翁は國學を以て聞え、この先生は漢學を以て聞えた。同じ時代であります。この人の書いたものにいろんなものがあります。農政本論といふのがありまして、この中に齋庭の穂のことが書いてあります。齋庭といふのは清い場所といふことであります。清い場所に出来た穂、天孫降臨の時にこれをお授けになつた。それで農政本論にはかう書いてあります。「大西國或は小西國或は日向種或は笠縫種、今日かういふ名稱を以て世の中に傳はつてゐるのは、天孫降臨の時に齋庭の穂として天孫がお持ちになつた穂である」と農政本論に書いてあります。これらは外の天子ならば自分の祖先からお受けになつた穂であるから自分の財産であると思ふ。ところが今申します通り、日本の天皇といふ方は決して「天皇に私なし」御自分の物などといふ思召のある方でないであります。穂は皆國民に御配付なさる御自分の所に一つもお用ひにならないで國民に皆お興へになつてしまつてゐる。全然外の君主と違ふのであります。外の君主ならば自分の祖先から貰つたものであるから自分の財産であると思ふ。三種の神器もその通りであります。決して天皇だけの御寶とは遊ばさずに、天皇と申上げるのは國民國家を現はして天皇と申上げるのであつて、國家國民を切離しては

皇と申上げないのでありますから、天皇と申す以上はいつでも國家國民がその後に居るのであります。それであるから、天皇の御寶といふものは同時に我々の御寶である。そこで始めて君民一體、君國一體といふ事實が出て来る。無論日本は農業立國の國でありますから、天孫降臨の時には齋庭の穂をお授けになつた。これが大嘗祭の根源になつた。今日御即位の時に大嘗祭といふものを行はせられる根源となり、また十一月二十三日の新嘗祭といふものもこれが起源となつてゐるのであります。

さういふ鹽梅で、日本の天皇といふお方は御自分に私といふことはおありにならないお方であります。「天皇に私なし」御膳を召上げるのも御自分で私に召上げるのでなく、國家國民の表彰遊ばすお方であるから、國家的、國民的に召上げる、「天皇に私なし」一舉一動どんな事を遊ばすのも、天皇に御私といふものはない。天皇が宮中に於てお祭を遊ばすのも無論、天皇の御私祭などといふことはある筈はありませんから、皆國家國民の代表としてお祭を遊ばす。宮中のお祭といふことは、國民全體のお祭であります。「天皇に私なし」天皇のなさることは一舉一動悉く國民のためである。國家のためにおやりになる、「天皇に私なし」

「天皇に父母なし」無論、天皇とて御父母のあらせられないわけはありません。それにどうして「天皇に父母なし」と申すかといへば、天皇の御位にお即きになれば御父母といへども臣下として、天皇にはお仕へになる、お父様やお母様も臣民となつて、天皇にはお仕へ遊ばす、天皇は絶対でありますから、御父母といへ

ども臣民となつてお仕へ遊ばす。それで「天皇に父母なし」といふ。それであるからその通りに今日の憲法も出来てゐる。さういふことは文章には書いてありませんけれども、事實はさうであります。憲法の上で統治權をお持ちになるのは、天皇お一人であります。恐れながら皇后様でも、皇太子殿下、その他の皇族方でも皆被統治者であらせられる。天皇獨り絶対——だから文章ではさう書いてないけれども、事實は統治權は、天皇獨り絶対である。「天皇に父母なし」御父母といへども昔から、天皇の御位にお即きになれば御父母も臣民となつて、天皇にお仕へ遊ばす。また「皇子なし」これも皇后様もいらつしやる。皇太子殿下も、内親王もあの通りにいらつしやる。それにどうして「天皇に妻子なし」と申すかと申しますれば、天皇は、皇后様や、皇太子殿下、内親王様のみを御妻子と思召すことは出来ないお方であらせられる。國民全體を妻子と思召さなければならぬ天職をお持ちになつた方でありまして、そこで「天皇に妻子なし」かういふことをお考へ下さると成程日本の天皇といふ方は外の皇帝とか王とかいふものとは全然同じものではない。外のものは人間の扱ひであるけれども、日本の天皇は人間ではない、神様としてお取扱申上げてゐるのであります。それだから御父母といへども、天皇の御位にお即きになれば臣下となつて、天皇にはお仕へ遊ばす。かういふやうなことになるのであります。かういふ點につきましては、明治天皇は實際その通りを御實行遊ばしていらつしやる。そのお話は澤山あるのでありますけれども、その一つ二つを申して見ませう。



例へば明治二十二年の憲法發布の時であり、今から五十二年ばかり前であり、憲法發布の時に全國民が喜んだことは固よりありますが、東京の市民が非常に喜びまして、所謂千古不磨の大典を御發布になつたのであるから、是非とも天皇皇后御二方に上野に御臨幸を願つてさうして大祝賀會を開かうといふことになりまして、時の總理大臣である伊藤博文公にその旨を述べて、天皇皇后御同列で上野へ御臨幸を仰ぎたい、かういふことを申出ましたところ、伊藤博文公も非常に喜ばれて、陛下にその旨を奏上せられました。ところがその時に「皇后と同列といふことはあるまい」かう仰せられたさうでありますけれども、伊藤公にはその意味がよく判らなかつたものでありますから、「是非とも市民全體の懇望でございますからどうぞお許し願ひたい」といふことを二度三度伏奏したところ、「いやそれならば宜しい」と仰せられて、博文公御前を下ると、徳大寺侍從長を召されて「總理大臣が斯様にいふ、市民全體の懇望であるから皇后も同列で上野に臨幸せよといふことであるが、皇后と同列といふことはあるまい。併しながら今回の市民全體の懇望であるといふことであるから市民全體の懇願と一緒に馬車に乗せて行くといふ意味で、皇后も一緒に行つてよからう」と仰せられた。お言葉は固より違ひませうけれども、さういふ意味を徳大寺侍從長にお洩らしになつた。侍從長は恐懼致しましてその旨を奉じて、明治二十二年の憲法發布の時に上野へ始めて、皇后様と御一緒にお出でになつた。それ切り明治四十五年間、明治天皇は政を遊ばして居つたのでありますけれども、四十五年間にたゞ一遍皇后

様と御一緒にお出でになつたことがあるばかりで、後は一週も御一緒にお出でになつたことはなかつた。天皇絶對といふことを御實行になつて居られた。それがよくおそばの者にも判らずに今日に至つて居ります。私もその話を聞いたのでありますけれども、自分にも一向判らずに、どういふことをお考へになつておられるのか、皇后様と御一緒に出掛けるに成らない。何か申上げると「皇后は人だよ」と仰せになつたことがあるけれども、何の事か判らずに今日まで来たといふことをおそばの者がいつて居りましたが、「皇后は人だよ」と一、二度仰せられたことがあるといふのは、自分は神である。皇后は人間である。それであるから同列といふことはない。自分は絶對のものである。絶對であるのに同列といふことがある筈はない。かういふ意味をおつしやつたのでありますけれども、そこを明治天皇はハッキリおつしやつて御實行にお現はしになつたのでありますから、決してあゝいふものだ、かういふものだといふ御説明はないのであります。

それからまた明治三十五、六年頃のこと、思ひますが、先般おかくれになつた竹田宮大妃殿下と今でもおいでになる北白川宮大妃殿下の御姉妹が、竹田宮大妃殿下の方は姉様で御十二歳位、北白川宮大妃殿下は御十歳位で、もつと明治天皇のお子様はおありになつたのでありますけれども、次々とおかくれになつた。そこで國民が非常に心配致しまして、餘りお大事に遊ばすためにお子様がお育ちにならんのぢやないか。なるべく民間の子を育てるやうに餘り大事になさらないやうにお育て願ひたいといふことが誰いふとな

く天下の輿論となつたことがあります。この事が雲の上にも響きまして、今の貴族院の副議長をして居られる佐々木侯爵、あの人のお祖父さんで佐々木高行といつて、その頃はまだ伯爵でありまして、その功勞によつて侯爵となつた方でありましたが、佐々木高行伯爵は非常に謹嚴な眞面目な人でありましたから、陛下にはその極く謹嚴なところをお見込みになつて、竹田宮大妃殿下と北白川宮大妃殿下のお二方の御養育を佐々木伯爵にお命じになつた。もう佐々木伯爵は老伯爵で全く自分の身など捨て、恪勤勵精——今日でもよく人が佐々木侯はよくお勤めしたといふことを年を取つた者が皆知つてゐる程であります、自分の身など捨て、お二人の御教育に従事したのであります。折々お二人のお供をして、陛下の御機嫌伺ひに月に二度位参ります。さう致しますと、明治天皇がいつも判を押したやうに同じ事をおつしやるさうであります、いつても同じ事をおつしやるのに、軀宮様でありますから、お二人で高輪の宮においでになつたのであります、宮にお歸りになると、父陛下がかう仰せられた。その時こちらからかう申上げた。かう仰せられた時にかう申上げたといふことをお二人で二日も三日もいつても同じ事を繰返してお喜びになつていらつしやる。そこで佐々木老伯爵が見るに見かねて、あのやうにお喜びになつてゐるのであるから偶にはもう一際御親しみのあるお言葉を頂戴なされたならばどんなにお二人がお喜びになるであらう、陛下にも少し變つたお言葉を賜はつたらよからうといふことを始終老伯爵の頭に思つて居つた。いつか折があつたら、陛下に懇願し奉らうと思つて居つたところが、或時お二人のお供をして宮中

に出ました、その時は殊に 陛下の御機嫌も麗はしく、非常ににこやかにお喜びの御様子でありましたから、今日こそは思ひ切つてお願ひしようと思つて、さうしてお二方が御退出になつても老人は残つて居りますので、明治天皇から「佐々木、今日は何か用があるのか」「今日は是非 陛下にお願ひがございます」といつてその由を申上げた「お二方の姫宮様が高輪の宮にお歸りになるといつも 陛下から同じお言葉を頂戴なさいますのでその同じお言葉をお二人で繰返し〜二日も三日も同じやうにお話になつて居ります、もう一際御親しみのお言葉を頂戴なされたならば如何にお喜びなさることであらうと思ひまして、老人からひたすらこの事をお願ひ致したのでございます」といふことを申上げた。さうすると固より低頭平身して申上げてゐるのであるから、龍顔を拜するわけには行かない。ところが一向お言葉がない。直ぐお言葉のない時は御氣色を損じたとおの人達はよく承知して居ります。悪い事をした、あのやうに御機嫌麗はしかつたのに何とも仰せられん。どうしてお氣に障つたか、洵に悪い事を申上げたと思つて低頭平身してお言葉のあるのを待つてゐた。二分、三分、五分といふ風に経つけれども一向何とも仰せられん。凡そ十分も経つたかと思ふ頃に始めてお言葉がありまして、「佐々木、お前はさういふことは判つてゐると思つたがさういふことをいふのか、禽獸でも子を受する道を知つてゐるといふではないか、自分として子を受することを知らんのではない。併しながら自分はあの二人だけを子として扱ふことの出来ない身分ではないか」と仰せられた。天皇に父母なし、妻子なし 天皇は國民を妻子と思はなけ

ればならない身分である。あの二人だけを子として扱ふことは出来ない身分ではないかとかう仰せられたのでありますから、佐々木老侯萬斛の水を頭からかぶせられたやうな心持がして、冷汗をビショ〜にかいて洵に恐れ入つて、年甲斐のないことを申上げて相濟まんと思つたから恐縮して、恐れ入りましたといひ〜、だん〜後の方につつてその日は退出してしまつた。さうして翌日改めてお詫びを言上したといふことは私ども何遍も聞かされた話であります。洵に伊藤公の時の話といひ、佐々木老侯の時の話といひ、全く天皇に父母なし、妻子なしといふことを御實行遊ばしていらつしやるのであります。それからまたずつと時を経てからであります。三十七、八年の日露戦争の終つた翌年、三十九年の四月の三十日と記憶しますが、青山の練兵場に於て日露戦争が終つたのであるから大觀兵式を行はせられました。宮内省では 皇族方にも御同列で練兵場にお出でになるやうに御案内状を差出し、またその日の朝日新聞などにも 天皇 皇后兩陛下御同乗で式場にお出でになるといふことが書いてありました。ところが十時に青山の練兵場に出御になるといふことになつて居つたのに十分、二十分、三十分といふ風に時は経ちましたけれども 陛下の臨御がない。陛下は決してそんな時にお遅れになつたことばないさうであります。その日に限つて三十分経つても 陛下の御臨場がない。大騒ぎであります。宮様方は大抵 妃殿下御同列で宮内省の御通知によつてお出ましになつてゐる。殆ど一時間近くお遅れになつた。幌なしの馬車で 天皇陛下お一人で御臨場になつた。そのお寫眞も宮内省に残つて居ります。それは何の事

でお遅れになつたのか、何で 皇后がお出ましにならなかつたのか、今日に至るまで誰も判らずに済んで来て居ります。たゞその頃を知つてゐる中將とか大將といふ人は實際さうであつたといふことをみんな知つてゐる。併し何のためであつたらうといふことは却てその人々が今日に至るまで判らずに居る。皆判らずに済んでしまつた。それでですから何のためかといふことは判らるのでありますけれども、恐らくは宮内省ではやはり 天皇 皇后兩陛下御同列でお出ましになるといふことでその準備をしたのであります。ところがお出ましになる時に 陛下は御承知になつて、「それはいかん、皇后と同列といふことはない」とおつしやつたに違ひない。明治四十五年間、先に申上げた憲法發布の時だけ始めて御同列で上野にお出でになつた。その時も御同列といふのは市民全體の懇望を一緒に馬車に乗せて行くといふ意味でよからうと仰せられて御一緒にお出でになつたのであるから意味が違つてゐる。さういふことは恐らく人々にお話にならんことでありまして、それから今日に至るまで判らずに來てゐるのであります。明治天皇に恐れ入つたことは無言の教へ〜からうせい、あゝせいといつてやかましく教へられたよりは、何ともいはずに無言の間に千萬無量の教へをされてゐることは實に有難いことで、こゝに誰でも涙がこぼれるのであります。本當の事柄といふのは決してあゝだかうだと理窟ばかり人によつても駄目でありませぬ。本當の眞心を以て教へられたことは何千年経つても涙がこぼれる。例へばあなた方が湊川神社の前にお出でに





## 續 なかしの旅

教授 川上 敬逸

### 板垣閣下を圍んで語る

南京に着いた日の夜のこと。東亞聯盟協會の依囑を受けて、遠く中國に使した私ども五人は、板垣閣下の官邸に招かれてゐた。

新政府成立式典の行はれる二日前といふに、私どもが辭去するまで前後四時間近くの間、閣下は打ちとけて話したり、笑つたり、語り合はれたことであつた。

席上、もちろん、私どもを特に閣下に御紹介下さつた石原莞爾閣下のことどもが話題に上つた。すぐる滿洲事變以前から、夙夜ともに東亞聯盟に心を砕かれた兩雄の心やりが偲ばれて床しかつた。陪席の辻少佐の熱論には、一同スツカリ感激の目を瞠つた。その間、終始黙々として、私どもの會話に耳を傾けられてゐた副官島山大尉の武人らしい姿も、またトテモ印象深い副官として優しい心づかひが、身にしみたくてあらう。慈父のやうな閣下の温容は、實に、私どもも名もなき國の積年の思を訴へるに余りに充分であつた。話は事變の遠因にまで遡つた。かくて、なかんづく、眞に支那を理解せんとする温い心根の乏しかつた日本朝野一體としての自省が、何よりも、事變處理と東亞百年の大計のための根本條件であることが痛感させられたた

ちまち、話題は落ちつくべきところに落ちついた。心なき一部統後と心なき一部現地日本人のしぐさもさることながら、爲政者の責任を衝くやうな熱論も出た。閣下は、時々大きく肯かれた。もちろん、軍に對する國民の所懐についてもわれわれは訴へた。すると、閣下は、あの好意の重眼を細く丸くして微笑されるだけであつた。

上海の自然科學研究所で仕込んできた話題も時を得顔に口をつけて出た。その際、中でも、某中國人から日本軍の管理下にある彼の工場について、訴へるやうに聞かされてきた生々しい悲話が、切實な一例として擧げられた。また、閣下の參考にもと考へて、新政府の陣容についても、次のやうな卓見を開陳した。すなはち、私どもは、自然科學研究所の上野先生から託されたやうに、新政府の要人中に、日本に留學された人々の比較的に少い事實について、閣下の意見を伺つたのである。ところが、逆に閣下からわれわれに希望を述べられた。「日本に學んだ中國人が、日本に學んだが故に、すべて親日家であり得るならば、支那事變も起らなかつたでせうがね」と、そこで、思はせられることが日本の教授や學生は、後ら中國の留學生に對して、どんな世話をしてきたことであらうか、といふこ

とである。

東亞聯盟協會京都事務所のF氏が、こんな話をされたことがある。「中國の青年が日本に留學する第一の理由は、日本の方が歐米よりも安あがりであるからです。ところが、この食費生を、或はカフェーに、後は喫茶店に案内してくれる日本の學友はあつても、後にその全部の支拂をさせないやうな學友は殆どないのですからね。しかも、宿に歸れば、冷い下宿の婆さんが待つてゐるのですから」。

これは、私どもが、上海で聞かされた話である。上海あたりの英米の會社では、英米に留學して歸つて來た中國青年を、必ず自分の會社に採用する。ところが上海にある日本の會社とまでは、絶対にそのことはいふさうである。

しかし、こんな事實もある。それは、こちらの大學にゐた或講人學生のこと。後のクラスメイトの中でも彼ほどの人氣者はなかつた。この大學では、彼が最初の留學生であつたためであらうが、それはまた、彼のクラスに出講するさる教授が優しい思ひやりで、時々彼のクラスのアンテナルナシヨナリテについて辯じもしたし、學生たちとまた、彼の存在を全クラスの誇りとして彼と親しんだためでもあらう。彼の方でも、その俊敏な頭腦を傾けて精進はするし、また彼の周圍の友だちのためならば、何ものをも惜まないものゝやうであつた。しかも、卒業の曉には、彼は本國に歸つて高等官として直ちに出世できる約束になつてゐる。これ、得意の在學三ヶ年がつかぬ道理はないではないか。

しかし、歸國してからの彼は、全く磨り切つた日を

送らねはならなかつた。正義感の強い彼は、遂に役人を辞めたいとこちらの親友の一人に洩らしてきた。どこを見廻しても、鼻をつまむやうな日系官吏の満洲國官界であるやうにしか思はれぬといふのである。今日はどうか知らないが、あたゝかい心ほど、人を信頼と尊敬の念に充たさせるものはない。

辻少佐の經驗談である。少佐が滿洲國在勤時代、單身さる匪賊の巢窟へ乗り込んで行かれたとき、少佐は幾日だったか、そこで匪賊たちと寢食を共にされた。もちろん、少佐自身は何の武裝もせられずに、ところが、不思議にも、彼らは少佐に何の危害をも加へやうとはしなかつた。たゞそれだけではない。後日、その頭目が少佐をたづねてきて、一味の歸順を誓ひ出たのである。しかも、歸順後の目覚しいこの頭目の宣撫工作には、遠く日本人のそれも及び得ないほどのものさへあつた、とか。また少佐はノムンハンの戦で、具に體驗された支那兵の強さについて語られた。「日本にしても支那人をほんとうに心服せしめ得るならば、日本は日本人の一兵をも損することなくして、ソ聯を撃退し、得るであらう」と。それほどに、民國二十年の抗日教育が、全支統一の氣運に燃えた中國青年を覇氣にみながらせてゐるのである。

私はいつた。あたゝかい心は、さらに間近な現地との間にも、もつともつと、深められねばならない。現地も銃後國民のふしだらのみを見ないで、このふしだらな一部國民の存在にかゝらばらず、戦時々局のために黙々と苦難に忍従してゐる國民が、どんなにか多いことだらう、とあたゝかい思ひやりしてもらひたい。この未曾有の大時局に當つては、神經衰弱症様の不満

は、互に差控へたがよいのではないか。省りみて他をいはんよりは、各々その分に還り、己れのを竭くすることが急務である。己れのを竭くす心は、すなはち他の分に信頼し、それを重んずる心である。また、もし東亞の諸國、擧げて各々その分に立ちかへり、その分を竭すならば、分と分は強き全體の和に歸一するはけだし必定であるであらうと。

中國の農村問題も話に出たし、日本のそれも話題に上つて、切ない思をさせられたことであつた。しかし租界の問題と中國專制の問題ほど深刻な思ひをさせられたものはなかつた。

私も五人が、閣下の御好意の事を辭退して、玄關に待たせておいた一臺の車につめ込んで乗つたとき「それも東亞聯盟精神で行くか！」と大きく笑つて見送つて下さつた閣下の姿ほど心強いものばなかつた。

### 湧いてくる中國の民生

人も知るやうに、中國民生四億何千萬かの中の約八割までが、農民であるといふ事實は、余りにも大きな中國の特徴を形づくらずにはおかないであらう。

南京でも、上海でも、何となく深く感じたことであるが、中國の民は、金魚の餌のやうに、湧いて生れては、いつしか消えて亡くなる一とかたまり虫のやうである。上海でロンゴーツに乗るたびに、さういふ感じをいだかされたことであるが、それは、また南京でヤンチョウに乗つても、同様に感じさせられたことであつた。

ちやうど、天六の新京阪前あたりから梅田邊まで行

くのくに、私が車に乗らうやうな振りでもしやうものなら、奪ひ合ひのやうに、逸早く私の前に車を持つてきて、こちらに分りもしないことばで何かいふたかと思ふと、行先だけを合點して、走り出すリキシヤマンがいかにも多いことか！ よほど關心でももつてゐないかぎり、自分を乗せて走つてゐる男が、どんな顔かたちのものであるかさへ全く氣づかずに、オウソリ十錢也を手渡して、サツサと降り去つて了ふほど、彼らの數は街に多い、また、それほど一様に、汚れた、しかも綿の飛んで出てる上衣や破れボロボロの薄いパンツを身に纏ふて走つてゐるのが、彼らである。彼らにしても、また、人間を乗せて走つてゐるといふ感じよりも、「十錢」を乗せて走つてゐるといつた風にしか感じてゐないものゝやうである。しかも、雪や霜のある朝でさへ、裸足で「十錢」を乗せて走つてゐる彼らの姿には、仕事にありついたといふ満足さうな表情しか見受けられない。仕事さへあれば、可憐にもこれほど働くことを厭はぬ民は、外にないのかも知れない。

實際、長江の流域に湧いて、生れて農村で食はずにこゝ上海や南京に押し流されてきた農民の數は、どんなに多いことであらう。數ある自國のことばの中、百姓ことばといはれるあのズーゾー辯の上海語一つしか喋れないで、消えるやうに世をはかなみもせず死んでゆくのである。しかも、あのシートだけは、感心にもサツパリと洗つた晒布でカヴァされたガタガタ車にありついて、たゞ走るためにのみ生れてきたやうなその生涯を送れる者は、まだまだ幸せな方なのである。内地のものとはちがつて、あの上海や南京のウンと車體の低い人力車に揺られて行くエトランゼユの眺め

はいかに大膽らしい印象である。いく夜の月であつたらう？ 私は、宿からリンボーツに揺られて、ガードンブリッジの方の街に向ふ途すがら、薄赤味をおびた黄色な丸い月が、バンド近い河口に映えてゐた。春宵上海の夜の風情に、あかず心を惹かれました、捨てがたいではないか。

五月半のさる夕。奉天から歸省してゐた T 君と二人で、大江橋附近の通りすがりであつた。立ち並んだビルディングの合ひ間にボツカリ浮かんである黄色い月を、私の頭は、上海の思ひ出でながめてゐた。すると滋賀の湖邊に夜前の月をめでたばかりの彼が、溜息のやうにつぶやいた。「およそ、ビルディングにかゝつた月ではネ」と。今でも、その夜の月が、人のよきさうな丸ボツチの顔をして、私たちをわらつてゐるやうである。

(1) 教授であつたか、さる現地視察雑談會の席上で、「中國の民は、實際、自然の一部とし考へられませんと語つたことばほど、私のいふて、みたい支那人を、最もよくいひ表はしてくれたものはない。一河の流れ、潤んだ月、梶舟に走りつゞける生涯、曉に出て々に歸る中國の農夫。誰か、「無限」に連る中國の民の弱き強きと思はずにあられやうか。考へたからではない。ただ、そんなに感じさせられるのである。

無限の支那通に習は、いつかの研究會で、支那の自然觀や、無始無窮の道教的理想や、冥圖理想について話してくれたことであつた。

三十年とか、五十年とか、また百年とかの、一時代にみる支那の民ほど、不甲斐なくもダラシなく見えるものはまたとないであらう。しかし、しづかに中國の

歴史を案ずるものならば、誰とて、その文化の余りにも長い不滅の事實に、驚きの目を瞠らすにほゐられないであらう。

もしそれ、支那事變の戦ひに勝つた日本人々々が、中國の首ツ筋を押へつけてでもしてゐるやうな氣持で、事變處理に臨まうものなら、或は十年や二十年、馬乗り中國を押へつけ得ることかも知れない。しかし、假にもし、こんな考方が、日本人の大多數のものゝ事變處理思想で、もあるとしたら、これほどほかない幻覺はまたとない、なぜなら、事變以後、日本人々に馬乗りに押へつけられて身動きもならなかつた筈の中國の人々は、その實、起き上がらうともなく代りに、もう一段と低い凹地を選んで、セツセト、威力ある次の時代を育んでゐるに違ひないから。

さればとて、中國の人々は、次の時代のために自らの時代を死なうなど考へて、そするのではない。事實は、まさに反對で、彼らは、次の時代にも生きつゞけるのだ、と信じてゐるからである。始めもなければ、終りもない。たまたま、凹地を選んで雌伏してゐるのでも、もちろんない。それは、過去を敢て問題とせず、興へられた現状から踏み出して、また元のから築き上げて行く姿である。

まことに、「湧いてくる中國の民生」は、たゞ自然の一部として、最少の抵抗線に沿ひながら、宇宙の無限に連つて、永劫に生きつゞけて行く強い存在である。彼らは、友人から、宇宙と人生の渾然たる融合を哲學しつゞけてきた民であるやうにも思はれる。

こんなに考へてくると、またしても思ひ出されるのは、故平川清風氏が遺した次のことぐさである。

「何といつても、四千年の文化の體である。最近の一世紀にすつかり半植民地扱ひにされてしまつた、め、何もかも實際以下に低く評價されてしまつてゐるけれども、これは政治上のこと、社會的に見れば四千年來深く泌みこんだ支那の社會及び民衆は、これに加へられた低い評價を事實の上に拒否して、儼然たる存在を示してゐる支那を知らないで仕事をしようとする人々は、實際に仕事にかゝつて見てこの儼然たる支那にアツつかつて吃驚する。吃驚しても引込むわけに行かないので、制度でゆかうとする。こゝに無理が出来る、一時に成功しても、成功を永く維持することが出来ないわけである」。

「.....」  
順治・康熙・雍正・乾隆諸帝の法政の迹を見ると、彼等が一方に統治者としての秋霜の威を挟んで民に臨んでゐると同時に、他の一方において、漢民族の文化を尊崇し、四千年の中國道統の前に拜跪することを忘れなかつた。こゝに滿朝之百年の基礎があつたと思ふ。

「支那の歴史は、あの大黄河や揚子江畔の滋味に萃かれて集まる異民族の爭闘史ともいへる。中國の民は、異民族との抗爭に、妥協に、謀略に、苦計に、あらゆる人の世の苦酸を嘗めて、國家としては弱く國民としては弱いが、うてば打たれ叩かれた苦勞人のやうな消極的な非常な強さをもつてゐる。踏まれ



ても、踏みぢられても春になるとまた芽を出す強さである。たゞ弱き一面を見て、強い一面を見ずに、無理を通さうとするいろいろな計畫はよほど考へ直さなくてはなるまい。

あの皇草の勞苦を味はせたら、とゞればと思つたとか知れない。いはんや、命がけでやつてゐるあの中國の青年たちと、一夜でも話させてやつたらといくたびも考へたことであつた。

## 南京の夕

國民政府遷都の日の夕。私たち五人は、V・M・C・AのS氏の斡旋で、ヤンチヨに揺られて漢口路なる趙如珩氏の宅に招かれて行つた。

如珩氏は、國民政府教育部長趙延平氏の甥で、中國保甲制度の研究でその名の知られた人である。京都帝大經濟學部の二、三年前の出身であるが、それも、保甲制度論の印税で日本に遊學されたのだといへば、およそ、その識見の非凡なることを知るに難くないであらう。

現に「貫通」といふ文化雜誌を主宰されてゐるが、この「貫通」といふのは、いはゞ文化の「交流」とでも邦譯せられるやうな意味のものである。昨年その創刊號を出されたばかりであるが、主宰者が心を砕かれた雜誌だけであつて、澎湃として起つた和平合作運動の發展と併行して、今では押しも押されぬ立派な文化雜誌となつてゐる。

趙氏は、私どものために、合作運動の指導者で、國立南京大學の準備委員の董王氏や、中央政治會教育委員會主任の康惠民氏などにも、集つてもらつてくれてゐ

た。童氏は、岡山縣立農業を経て鹿兒島高農を出られ、現に農業實驗所の技正をされてゐる方だけあつて、同じ中國の農村問題でも、この人に話を聞いてみると、さすがにほんものゝ感じをいだかされずにはゐられない。

私どものために、南京第一の料亭のコックを呼んで作らせてくれた南京料理に舌鼓を打ちながら、日支の文化の「貫通」に花を咲かせてゐるところへ、伯父の趙正平氏と教育次長の樊仲雲氏とが、かけつけてきてくれた。

趙正平氏は、明大の出身で、このたびの和平救國運動の急先鋒の一人であることは、今さら書き立てるまでもない、見るからに、政治家らしい堂々たる老練の士であるが、今日の大任も果された氣易さもあつて、その流暢な日本語で滿堂を和氣鬨々たらしめた。氏は老子の研究家として著書もあるほどである、それから引用された次のことばに、大きく笑つて乾杯された氏の風と、ともに、今もなほ私の耳から消え去らうともしない。

「與ふるところ多ければ、得るところ益々多し」

私自身としては、老子のこの思想には、何となくイギリス風の巧利主義的な臭味を感じないわけではないが、しかし、これが中國四億の民の聲だと思へば、それはまたどんなに含蓄に富んでゐることかも知れないのである。

部長の趙氏とは、まるで反對に、少しも政治家らしい臭のしないのが、樊次長である。「誰からみても、餘り健康さうに見えない青白い顔のストラリとした神經

質のタイプの方である。」外國へは一度も行つたことのない純粹に中國仕上げのまだ若い學徒であるが、これだけの學者が中國の自家製品であるといふことは、私どもに頭を垂れさせるに充分ではないか、國際政治學の專攻で、その緻密な論理と實證的な重厚な學風とには、どこかで、私の恩師の今中教授もいたく敬意を表して書いてゐられたほどである。日本語は話せないで、趙如珩氏の鮮かなしも熱心な通譯で、私どもは思ふ存分に語らふことができた、その話の一部に

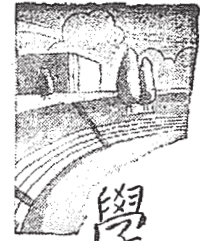
「私は日本語は話せないが、讀むことができますので」との前置で、陸奥外交あたりから論を進めて、今次の事變までを論に描破されたあの手法には、史觀の鋭さがこもつてゐて、その頭腦の透明さに驚歎させられずには居られなかつた。それだけ、私の自身に受けた刺戟は非才だけに一層大きかつたことは、いふまでもない。

その間終始一貫して、充分な語感までも盛つて、細い論理の綫を巧に通譯して下さつた如珩氏の眞面目な面持が、今もなほ私の眼底にしみこんで離れやうともしない。

この部長にしてこの次長あり、この伯父にしてこの甥あり、と感じたのは、たゞに私一人だけではないであらう。

實際、學徒として、また教育界の一員として、文政の首班と語り、造詣深い學徒と論を交はすことほど、本懐なことはない。

時計を見て、ハットしたときには、すでに南京最後の一夜は、はや更けてゐた。



# 學内報

## 日本文化講義

本年度第一回文化講義は左の通り開催した。  
 大學豫科 六月三日(月)午後一時於豫科講堂

國體と武家政治 講師 魚澄惣五郎氏

專門部第一部 六月三日(月)午後一時於天六學舍講堂

天皇の御本質 神宮奉齋會會長 今泉 定助氏

專門部第二部 六月三日(月)午後七時於天六學舍講堂

國體の本義 神宮奉齋會會長 今泉 定助氏

## 人事異動

五月十六日附

任專門部主事兼生徒主事 教授 和田 豊二

依願免專門部主事 教授 河村 宣介

任生徒主事 教授 安川安太郎

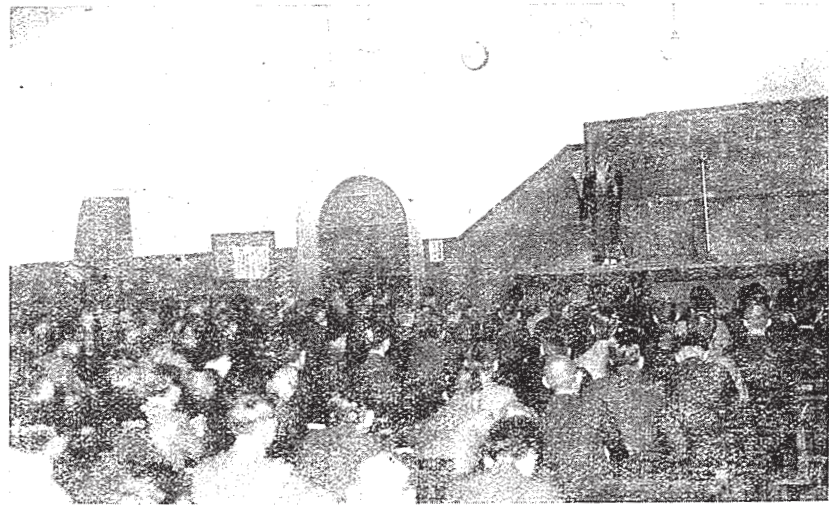
依願免生徒主事 教授 矢口孝次郎

五月二十三日附

任臨時教練教師兼學生主事補 (學部勤務) 中川市次郎

五月二十九日附

任臨時教練教師兼生徒主事補 (專門部勤務) 萬家 茂



專門部講堂に於ける今泉定助氏の講演

## 昭和十五年年度學級主任

- 第一豫科 飯田 一年 教授
- 第二豫科 A.B 河村信教授
- 第一學科 三枝樹教授
- 第二學科 A.B 岡本 教授
- 第三學科 大小島教授

### 專門部第一部

- C.D 田邊教授 C.D 山田 教授
- 法律學科 福島 教授 柳瀬 教授 川上 教授
- 經濟學科 森川 教授 赤羽 教授 矢口 教授
- 商業學科
- A 片岡 教授 中川 教授 三谷 教授
- B 植田助教授 佐伯助教授 國歲助教授

## かくほう抄

△日本經濟政策學會 五月十七、八の兩日東京商大一橋講堂における創立大會に神戸學長、磯部、矢口兩教授出席、神戸學長は本學を代表して理事に推薦する。

△正井教授 來る七月四、五、六の三日間文部省に於て開催される諸學振興會第二回經濟學會に臨時委員として出席。

△靈部教授 七月四、五、六日文部省開催される諸學振興會第二回經濟學會に於て「工業組合運動の國民經濟的意義」なる研究を發表される。

△片山教授 六月廿七、八、九の三日間文部省における諸學振興會第二回哲學會に於て研究發表をされる。

△大山彦一氏(元教授) 講洲國建國大學教授として民族學國家學を擔任され、資料蒐集の爲歸國上京の途次五月三十一日來學、尙郷里鹿兒島縣加治木町に在る二男惠彦氏は急逝された。

△賀屋俊雄氏(元教授) 三菱特派員として佛領印度支那海防に駐在中のところがこの程歸朝、五月二十四日來學する。



# 校 友

## 大 阪 支 部

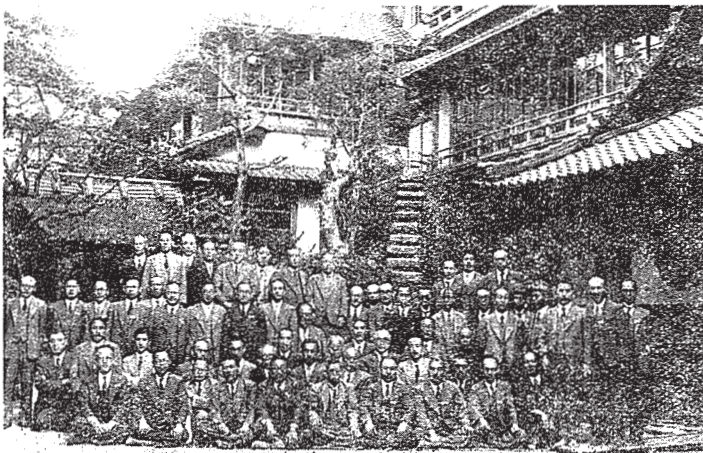
### 榎原神宮參拜懇親會

校友會大阪支部にては去る五月十九日(日)榎原神宮參拜し、興亞聖業の完遂を祈念し、兼ねて春季懇親會を奈良公園「菊水」に於て開催した。快晴に恵まれ大軌上六に集合した一行は午前九時電車にて出發、畝傍御陵前驛に下車して先づ神武天皇御陵に、ついで紀元二百六十年の佳き年に新に結構成つた榎原神宮に參拜祈願し、驛前の大軌食堂にて中食を攝りて休憩した午後は自由行動にて思ひ思ひに山陵廻り、飛鳥藤原の史蹟を見學し、或は平城京の古蹟、奈良に直行して春日神社參拜、泉山めぐり等をすませて午後四時宴會場の奈良公園「菊水」に集合、記念撮影の後總會に移り、内藤支部長より會計會務の報告並に大學の近況を述べ終りて宴に入り、歡談をつくして七時半散會した。

尚御高配に預つた大軌専務三好萬次氏、大日本ビール主任竹西助氏其他に謝意を表す。

出席者氏名(イロハ順)

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 板野 友造 | 飯田 清藏 | 一海 景右 | 生島 藤藏 |
| 萩原 敏隆 | 島田繁太郎 | 原田鹿太郎 | 橋本 康藏 |
| 丹羽守三郎 | 西木 寛一 | 富田金三郎 | 富田伸次郎 |
| 富田 貞男 | 遠部逸太郎 | 大崎萬太郎 | 奥田 忠司 |
| 岡本 義男 | 笈西大次郎 | 桂 忠雄  | 河村 宣介 |
| 柏元 孝治 | 吉田 晋松 | 吉木 留彦 | 吉田 一枝 |
| 古川芳三郎 | 玉木 三郎 | 武田藏之助 | 田邊 清市 |



てに前水菊部支阪大

- |        |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|
| 高松長左衛門 | 竹西 宗助 | 田中 健三 | 辻本 幸臣 |
| 永田 真雄  | 内藤 正剛 | 中谷 敬忠 | 中務 平吉 |
| 中塚 竹藏  | 永井 景一 | 中村 岩見 | 中村長之助 |
| 中尾房太郎  | 浦田 豊  | 植田 定治 | 内田 馨  |
| 野崎勇二郎  | 山根 謙藏 | 山野 展  | 安井 章吾 |

## 戰線だより

拜啓平素は匆忙として取紛れ御無沙汰のみ致し誠に失禮仕候、留守中は何呉れと御厚情を賜りお蔭様にて後顧の患なく一意専心任務遂行罷在候段厚く御禮申上候(中略)第一線も過般國民政府新政權成立以來尙頑迷に抵抗する輩に徹底的攻撃を加へ、精神的に物質的に其戦果の甚大なるは既に新聞紙上にて御承知の事と存申候。小生等も三月下旬から約四十日程防禦より攻撃に更に西に東に、縦横に追ひまくり、全く敵の積極的企圖許さず、一大戦果を収めて目下一ト息の處に有之、敵の戦意も愈々低下し、東亞新秩序の進捗も愈々明瞭と相成申候。一線も此頃は現地調辦主義にて、現地米を多量に使用し、水牛等を代用して國策に順應致居候。將兵は益々士氣旺盛にて一團に御稜威のもと一意任務の完遂に邁進致居候。目下晝間は暑氣強く、夜は露露の夢を結ぶ能はざる寒冷を覚え、大陸の氣候の激變に驚入候。先は平素の御無沙汰御詫び旁々御報申上候。

(五月二十二日)

中支〇〇部隊〇〇部隊〇〇部隊井上隊  
准尉 袋井榮太郎 (専門部教練)

前略、相變らず北支、黄河々畔の此の地にて依然現任務を續行し東亞新秩序建設に邁進を致居候。陣中生活も漸く滿二年物珍しかつた支那の風物にも好奇心を起きなく相成候。中支北支と轉戦した跡を顧みると完く夢の如くにて大した武功もなく候へ共其の日々轉戦移動陣中生活には落着きを見出候。

四、五日前「義は泰山より重し」の泰山へ或る要務を帯びて〇〇の街へ行つた箭筒暇を見て登山致し候。泰山は日本であれば大した名山にては無之候も山の



## 東京支部總會

山崎 敬義 松本樹四郎 正井 敬次 松本芳太郎  
 松崎 義盛 前田 常好 松原 健一 松本 静史  
 藤原 光治 小泉 幸治 渡美元次郎 赤羽登治郎  
 阿部 其吉 佐伯 三郎 正田 麻治 志野覺治郎  
 引野 秀春 須々木庄平 鈴木 八郎 鈴木 武夫  
 角田好太郎

五月十三日午後五時より麹町區丸ノ内中央亭本店に於て東京支部總會並に懇親會を開催す。

久々に相見ゆる校友各自の追懷談、久瀨の挨拶、等々歡談に打興する程、午後六時半開宴例により松澤支部長の挨拶、矢追先生の御發聲にて皇紀二千六百年を祝福する默禱、母校及び校友會の發展、校友各自の健康を祈る爲めの乾盃等ありて宴を閉づ。

後ら別室に於て出席者の自己紹介に追懷談を加へられ、或は重大時局に切々の言を述べられ氣焔、拍手、相起り和やかなる雰圍氣の下に午後九時半散會したり當日の出席者は左の通り。

矢追秀作先生 (以下到者順) 山口直三郎 北山 義衛  
 清成五六郎 松澤 卓規 小林儀三郎 浦田剛太郎  
 高部 和男 富山 忠三 山本伸次郎 相馬慶三郎  
 久門 商利 尾關 義一 原田 正大 米田 忠八  
 小倉 清助 小見山美夫 加納實之助 山田善之助  
 古田吉五郎 大月義平二 福部 章 加邊 力  
 大村 喜覺 平井 正義 中村 隆藏 森本 經雄  
 中村 簡吉 三森 武雄 塚本 重嶺

## 大連支部

四月二十七日午後六時半より松山臺ラヂウム温泉に於て春季總會並に秀麗會第四十八回例會を開催す。櫻

花咲満つる庭園を前に持つ大廣間に三々五々お名染みの顔を各自持参に及び一ヶ月振りの清談を繰擧げつゝ勢揃を待つ。

午後七時定足數に達したので平井君立つて開會を宣し、次で議長推薦を動議し、秀島氏萬場一致推されて議長席に着き議事進行、第一議案支部長並に幹事改選の件全員一致議長に新支部長推薦方一任す、議長は中村支部長の辭意は健康上已むを得ざるものと認める旨を述べ、新支部長には大連支部創立以來の功勞者にして而も人格者の譽れ高き高濱直一氏を推挙したしと述べれば、賛成拍手囂然として起る。議長は高濱氏の承諾を得たる後、中村前支部長を當支部顧問に推薦し度き旨を語りたるに全校友賛成す。幹事改選の件は現幹事辭任の意強かりしも全員之を許さず、結局次期には必ず半數は退任することを條件付きにて現幹事重任に決定す。

第二議案 基本金の増額寄附の件を提案したる處此際充分の寄附金を集め、基本金の増額を爲すことに全員賛意を表し早速出席の長老を始め校友より寄附金の申出ありたり。

第三議案會務並に會計報告の件 議長に指名され平井君報告をなし會計出納簿は全員の檢閲承認を受けたり。

### 新役員

顧問 中村景太郎 支部長 高嶺直一  
 幹事 秀島全治 高木嘉一郎 平井三郎 武笠雄雄

於茲議長は議事終了の旨を告げて例會に移る。ちと堅苦しい三十分を過したお互はやれ〜と云は

ない中原にては唯一の山、唯一の名山にて候。

標高約一〇〇〇米餘にして、支那駕に乗つても登山出来往復にて四圓の駕代にて候。山は全くの岩山にして平地に巨石巨岩を積み上げた感あり、深山谿谷等と云ふ形容には縁遠きものにて候(後略) 五月六日

北支〇〇〇部隊〇〇隊田坂隊

田坂敏夫 (昭九大法)

昂まりゆく和平機運に南國R市は喜びに膨れ上つてゐる。事變前の人口と殷賑とをとりかへし更生の前途を歩みつゝひたすら和平を翹望し來たのだ。

そして今新中央政府の誕生で市民の關心はぐつと盛り上り、街々には新しい國旗にこの滿腔の熱誠を歡呼の聲を吐露してゐるのであります。

建國に全責任をもつて保證し日支共存共榮アジヤを興し世界の和平に寄與せんとする我々の雄大な大理想は日に月に大陸の戦線に力強く息づかつてゐるのであります。降つて小生昨春四月征途につき大陸に一步を印し東亞建設の聖戦に参加以來茲に一年餘の歲月を迎へます。春は大陸特有の降雨に濕潤、夏は百何十度の極暑にも至極元氣旺盛にて御國の爲め御奉公させて頂く事が出来ました。

此れ悉く同窓の皆様達の絶大なる御聲援の賜物と深く感謝さして頂くところで御座います。

現在では上陸當時の思ひ出の街R市に駐留警備いたして居ります。

戦地に參つてゐるとは申しましても何分警備が小範圍に限られてゐるので全般の狀勢を窺ふ事は出来ませんがそれに於ても治安は次第に確立され復興建設への力強い工作が着々進められて誠に心強い極みですその

んばかりに打覽いで杯を重ね大いに食ひ大いに語る。  
 今晩は新人もあり自己紹介に賑ひ、且橋三郎君の關大  
 消遙歌に自髪も禿頭も若さに返つて感激の胸をひとし  
 く懐く、木村光頭氏御自慢の自作自由のブラ〜節は  
 大喝采を博し次で室山、池内君あたりの軟派の總出演  
 等あり、實に和氣霽々の穿圍氣に浸り時の過ぐるのも  
 打忘れたる有様にやつと十時半、學歌を高唱して散  
 會した。

當日の出席者

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 小沼 六翁 | 高濱 直一 | 木村 儀八 | 室山宇太郎 |
| 伊達 弘  | 秀島 全落 | 池内 輝一 | 加來 茂彦 |
| 萩原 博  | 早川源四郎 | 竹若 隆三 | 松田 久雄 |
| 北條 茂義 | 武笠 尊雄 | 貴村 一雄 | 吉村 清一 |
| 橋 三郎  | 蕨谷 藤  | 平井 三郎 |       |

新 京 支 部

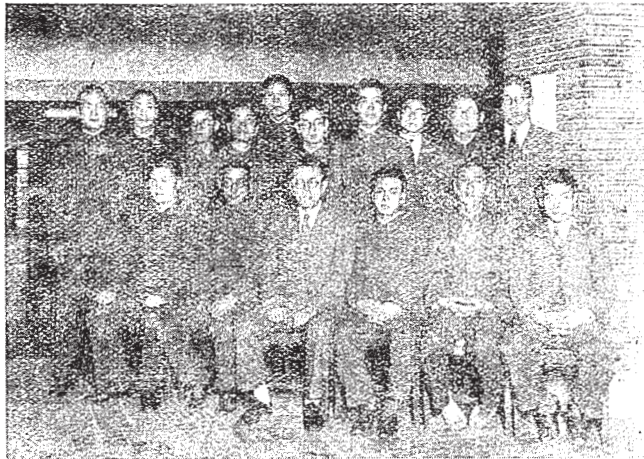
三月廿六日午後六時より大興ビル青葉グレルに於て  
 第十回國都例会をした。野球でお馴染の電々の宗内士  
 郎君が天晴れ甲種合格となり、廿日入營の爲歸省され  
 ることで送別會を兼ね宗内君を圍みて蓋を開く。當夜  
 の新顔は奉天支部の中心だつた三原隆輔君が此度電々  
 本社勤務となり初の出席を得たこと、滿洲土地開發會  
 社に就職赴任された太郎長松美君の二君である。

例会も意義深く第十回にもなると落付いた例会の愉  
 悦が生れて来る、固苦しい挨拶をぬきにして入營の  
 宗内君の爲に杯を上げれば後は鶴々たる零圍氣、場は  
 満ち〜て愉快だ。宗内君が一ヶ年の新京生活の回顧  
 談から射らずも同君が滿洲生れで滿洲語の名人である  
 ことが判明し、加ふるによく講人と間違はれることを  
 披露して爆笑せしめる。

例会の味は益々よくなるが出席者が定つて来ること  
 例会の新方向について眞面目に論議せられる。毎回の  
 會場である地階のグレルから抜けて此度は一度に二階  
 の座敷に行きたい話から校友ハイキングの話が飛び出  
 し、家族持ちは家族を連れ出す嬉しい話迄出来て来る。  
 破顔爆笑に時間の過ぎるのも忘れ、最後に三原君より  
 最近の奉天校友會支部の動靜を拜聴した後再び宗内君  
 の爲めに杯を上げ校歌を齊唱し午後十時幕を閉づ。

出席者 主賓 宗内士郎

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 大山 教長 | 三原 隆輔 | 太郎長松美 | 中村 數馬 |
| 志敏 五六 | 岩崎 繁男 | 佐藤 丈夫 |       |



新 京 支 部

中でも一番目覺ましい躍進は何と云てもこのK市です  
 約一ヶ年の山奥第一線にゐた私はこの街は上陸當時  
 の記憶でも住民の復歸といひ、物資の豊富さといひ、  
 急速なる進歩だと驚きました。又市内は到る處「日華  
 提携是樂土建設」とも「朝氣充滿的廣州」等の字句が  
 色も鮮やかに支那民衆に呼びかけ我軍の威武宣撫にゆ  
 きとどき、この國力の限りなき發展に誠に微笑ましい、  
 力強い感激をひし〜と感じます。

然れどもこの順調さも何日まで續くか次期作戦に新  
 局面に、萬一を備へ私達融和の中にも非常に緊張、明  
 日の戦計に愈々張切つて軍務に精勵さして頂いて居り  
 ます。

同窓校友諸兄の熱烈なる御聲援と御期待に一層奮闘  
 活躍する覺悟です。何卒今後ともよろしく。

先は右御無沙汰がはりに近況お知らせまで。

(五月十九日)

南支派遣〇〇部隊本部〇〇部隊山本(勇)隊

今 村 稔 (昭十三專二通)

拜啓 毎月御繁忙にも拘らず學報御送り下さる事に  
 對し深謝いたします。

小生は昨年の初夏祖國を出たのでありますが早や一  
 ヶ年を経過し及ばずながら新東亞建設の一端に従ふこ  
 とを許されて來たのであります。若人として詢に歡喜  
 に堪へません。

新政府の誕生と共に建設の歩は進みたりと雖も尙そ  
 の前途には幾多の難關あることは申す迄でもありませ  
 ん吾々に課せられたる所又重且大であります。吾々は  
 益々自己の任務を自覺しその達成に萬全を期する覺悟  
 であります。

四月例会

四月廿八日午後六時より大興ビル青葉グリルに於て四日國部例會を開催する。今春卒業の新人を迎へ總會と同時に盛大に例會を開く豫定の所意外の事故者多く新人の歓迎會及總會を爲すことが出来なかつたことは残念であるが入學の座敷にスキ盛の座を開いた。例會は何時にも倍した愉快なる例會であつた。新人は今春法文學部卒業の電々の佐藤孝智君、同じく専門部卒業の民生部の邑岡亮君である。又今夜は特に家族同伴の範を示して大山建大教授が令息満君を同伴參會して下さり實に落ちつきのある例會として愉快裡に終始することが出来た。

出席者

- 大田 彦一 同 齋 大部長松美 佐藤 孝智
三宅 良孝 邑岡 亮 志岐 五六 佐藤 史夫

東京千里山會發會

在京同窓による「東京千里山會」を創設し五月十八日その發會式並にその懇親會を芝大門閣に於て舉行、會員の面々元氣頗る潑刺、學生時代の回憶談に春宵の一夜を愉快に過した。今後屢々斯る會合を催し連絡懇親の機を圖らんとするのである。

- 小角太一 耶君(大) 大商 日本マダネシウム會社
倉木善夫君(昭二) 大經 上野 龜井堂
春元信夫君(明四) 大經 東京日々新聞社
岡島 勝君(昭五) 大法 日本莫大小組合
梶岡 市君(昭五) 大法 警視廳特高外事課
石川仁一君(昭六) 大法 日本高周波重工業高濱工場
井口一君(昭六) 大法 小松川酸會社

- 中山政信君(昭六) 大法 日本ブリキ屑統制會社
清水安義君(昭六) 大法 警視廳特高第二課
久井忠雄君(昭六) 大法 警視廳警衛課長
岡本顯潤君(昭十二) 大法 グリコ會社蒲田工場

蘆 法 會

野毒の赤く熟れあり麥の畑

昭和拾參年専門部第一部法律學科卒業生よりなる蘆法會は母校發展の足進りと共に健全なる歩みを續けつゝあるが去る六月五日恰も學部昇格十五周年記念の日其の例會をロックガーデンハイキングコースに催した。目醒めた時の上天氣は次第に薄暗い空模様と變つて行つたが、一同は阪急芦屋川下草、今はもう綠濃き四圍の眺めを満喫しながら松の樹立ちも列ぶ小堤の上を六甲の山へと進むで行つた。會員中其く顔を合し得るのは千里山學部在學中の者達であるが折に纏れ話に上るのは入營、應召中の諸君の事である。案じて居た空からは絹糸の様にやはらかい雨が音もなく降り初めたが、一同は今日も亦兵隊姿の諸君の事どもを思ひ出して話しあつたりした。梅雨近し今年も雨の少きを歸途、金谷誠造、高松幹男、竹下文雄、芝野員行、今井盛五の五名は中之島の圖書館に寄つて目下判明中の大上、井上、住田、與野、梅谷、尾崎、小林、佐伯、の八君に在阪會員の消息を傳へる「一文寄せ書」を送り得たのは暫く御無沙汰して居た諸君に對するせめてもの御詫でもある。高會員中、宮崎君は國文及漢文を今井、金谷、竹下、高松、田中、積内、山口(男)、山口(春)、前場、松本、牛尾、古城、芝野、森本、李、朴、大西の諸君は法醫學、落合君は政治學、平尾、村上兩君は經濟學を大々在學研究さつれ、あり他會員中

銃後の諸兄よ希はくば我等を勵ます一方祖國の歩を誤らしめざる様御努力願ひ度 (五月十六日)

中文〇〇谷垣部隊本部

村林 良次 (專二商三在學)

拜啓、本日は學報有難う御座いました。

戦休みのひととき母校の發展、學友の活躍を偲び薄暗いランブの下で時間の経過も知らず霞みふけります。當地は大變暖かく萌黄の色も鮮やかに楊柳は芽をふき空はよく晴れて大陸らしい斷雲が地平線の彼方にまで連つて居り、麥は白く太陽の光を浴びてすくんと伸びて居ります。然し風の強い日が多く龍巻など起りて一寸先も分らない様な日もあります、所謂黃塵萬丈です。

戦況に新聞やラジオで御存じの如く山西は活潑に動いて居ります。御陰で小生至極元氣で微力を盡して居りますれば何卒他事乍御休心下さいませ。では本日はこれにて風塵い山西より遙か海洋の彼方皆様の御健勝をお祈りしつゝ。(五月十八日)

北支〇〇部隊〇〇部隊井上隊 大田 義章 (昭十二專一法)

高級國書專門



二十段家寶

大東亞堂御製被強中販大 三七四四七三電



應召入營等の場合は此等の者の何れか迄御一報を御願  
したい。

〃雨休むで歡呼の聲を戸外に聞く〃 M.T.生記

### 會員消息

秋田谷 昇君(昭十三專一商) 石原産業會社神戸支社

より英領馬來半島トレンガヌ州ケママンの石原産  
業公司に轉勤す、宛名は c/o Isuhara Sangyo

Koshi, Ltd., Taiyo, Kemaman, Trengganu, Via-  
Singapore S. S.

青木 清君(昭十四專二商) 日本棉花本社より中華民

國山東省德縣馬家溜口街、同社德縣出張所に轉勤  
今村 重吉君(大九 專法) 住吉區山阪町一ノ一八に

現住

岩田 岩喜君(昭四 專法) 土佐貯蓄銀行預金課長に

就任、住所は高知市西町四二

生島興市郎君(昭七 專法) 去る四月廿三日逝去

泉 正雄君(昭九專一商) 佃化學工業會社、泉興公

司各代表取締役、尼崎市宮内町二丁目一ノ一六に

轉居

池田 幸雄君(昭十二專一商) 東京市芝區海岸通一ノ二〇

全國漁業組合聯合會購買部第一課勤務

今井 利雄君(昭十四專一商) 野戰重砲兵第五聯隊入營

上田吉太郎君(明三〇 法) 去る五月五日逝去、遺族

山口縣厚狹郡船木町二七五(男)上田仁平氏

白井 武彦君(昭九專一商) 四月廿二日丸島敏子嬢と

華燭の典を擧ぐ、新居は東京市世田谷區代田二ノ

上田 保則君(昭十一專一商) 北支天津日本租界曙街一

ノ五、河原洋行に在勤住居

梅田 大郎君(昭十四專一商) 去る五月廿三日逝去

白井 典正君(昭十四大經) 應召、通信先は三重縣鈴

鹿郡盡生村三寺二四

上野 義雄君(昭十五大法) 東京火災保險會社京城支

店に勤務、住所は京城府三飯通二五四ノ七五、伊

藤治吉方

植山 義治君(昭十五專二商) 蒙疆聯合自治政府に奉職

蒙疆學院に入學し六ヶ月の訓練の後には財政部に

勤務される筈、宛名は蒙疆張家口市大境内外蒙疆

學院南寮六班

江口 透君(大十三大商) ショラープレックマン製

鋼會社を辭し、一郡商會一郡組に入社南京支店長

として赴任さる、支店所在地は南京中山路四八

一五ノ一〇に移轉

大浦 泰輔君(昭十一專二法) 拓務省殖産局商工課より

朝鮮總督府企畫部第一課に轉勤

岡本 重俊君(昭十四專一商) 第廿五聯隊に入營中經理

部幹部候補生に合格

大浦 和彦君(昭十五大法) 日本製鐵釜石製鐵所に勤

務、住所は岩手縣釜石市鈴子町、里仁寮

川口 正夫君(昭十專一商) 森名小西硝子工場輸出部

在勤中此度應召(自宅旭區中宮町五三三)

龜田 實君(昭十一專一商) 五月十六日逝去さる、遺

族は住吉區濱口町三八四、父龜田正雄氏

加藤 壽君(昭十五專二法) 新京特別市自強街、林野

局監理科に勤務

木戸 正男君(昭十四大經) 入營、通信先は宇治山田

市古市町一四一

栗原 靜人君(昭十二專二經) 應召中去る四月末召集解

除となり口之津鐵道會社に復職勤務

近藤 清廣君(昭十 大法) 天王寺區北河堀町七〇に

移轉

吳 寅 生君(昭十三專二法) 吳維一と改名、住所は北

區北森町一六、沼田美代治方

坂本 龍夫君(昭十四專一商) 豐中市藤田三合に轉居

柴山 大亮君(昭五 大法) 兵庫縣武庫郡本庄村深江

榮通一ノ三に移轉

白水 駿一君(昭六 專商) 飯塚市外二瀬町元町五九

日産自動車販賣會社飯塚販賣所に轉勤

柴田 士君(昭十三專二法) 名古屋市熱田區澤上町二

ノ二五、後藤方に轉勤、帝國酸素會社名古屋工場

に勤務

首藤 義教君(昭十四專二法) 入營

鹽見常三郎君(昭十五專一商) 朝鮮全羅南道松汀邑松汀

里、松汀金融組合理事見習中

鈴木 寛君(昭七 專法) 炭山と改姓、朝鮮元山府

旭町一丁目に現住

谷 武雄君(昭八專一經) 應召

趙 鐘 丁君(昭十三專一商) 朝鮮釜山府釜田里五五二

に移轉、釜山府凡一町八八四、小佐工業會社に勤

務

都馬 小一君(大九 專法) 奉天にて辯護士開業

土谷正喜代君(昭十四專二法) 住吉區昭和町三ノ五に移

轉

郎 竣君(大十四專二法) 朝鮮河東郡勤務より固城

郡廳庶務課長に轉勤

富川竹次郎君(大十五專二法) 東淀川區稅務課徵稅係長

に就任

富田 實君(昭七 専法) 帝國海上火災保險會社和

歌山駐在に轉勤、駐在所は和歌山市宇須澄之江町

三六五

友井伊三郎君(昭九 大法) 大阪逓信局規畫課局所係

に轉勤

長本 元男君(昭三 九專法) 小倉區裁判所檢事局上席

檢事に轉任、住所は小倉市京町官舎

中村 泰音君(大五 大法)

水道部技術課に勤務

中井信次郎君(昭九 專二商)

天津市華界陸安大街門牌

中村 利一君(昭十二 大法)

林と改姓、西成區昭和館

中野 正喜君(昭十四 專二法)

兵庫縣加東郡社町四八八

中務 隆治君(昭十五 專二商)

更生絲紡績會社に勤務

野崎 春夫君(昭十四 專二法)

静岡地方裁判所に轉勤、住所は静岡市安東三ノ一〇二、川村方

早川 靜馬君(昭四 専法)

満洲工業開發會社鑛業試

廣瀬 蕙君(昭十三 專二法)

大阪逓信局海事部に轉勤

平澤 農一君(昭十三 專二經)

興亞院囑託として中華運

福島 通夫君(大九 専法)

臺灣總督府判官として臺中

福田 繁芳君(昭二 専法)

東京市大森區入新井三ノ

深田 直三君(昭十一 大商)

兵庫縣武庫郡瓦木村新田

字甲子園口二八一に轉居

福本 洋君(昭十三 專二經) 昭和鐵鋼商社名古屋出張

所(西區御幸本町通九、日本徴兵館二階二〇五)

に在勤

木郷藤三郎君(昭八 專二法)

奈良縣高市郡高取町下土

朴 義 鎮君(昭十三 專二英)

杉浦鎮雄と改姓名

松田 次郎君(大九 専法)

東京市四谷區霞丘三九に

柳本 義男君(昭十 專二商)

五月廿一日逝去

松本 肇三君(昭十五 專二法)

布施市新喜多町二二二高

三宅 馬大君(大五 專二商)

大阪信愛高女主事教務主

御園生孫一君(昭四 専法)

茨木縣鹿島郡野村與野

谷濱社團法人白十字會恩賜保養農園に轉勤

水野 秀雄君(昭十四 專二法)

大正區千鳥町四六、楠商

森田耕太郎君(昭十二 大法)

三井生命退職、紡織機械

山本 恒夫君(昭四 專二法)

日本海上火災保險會社監

山本 三郎君(昭十二 大法)

福岡縣女子師範學校に轉

吉田 金吾君(大九 専法)

東京市豊島區西草場三ノ

吉川 平治君(昭七 大法)

東淀川區田川通二ノ一六

青田 重敏君(昭十五 專二商)

日本通運會社に入社上海

工社に勤務(北四川路八六五)

—第六頁よりつづく—

なれば六百年前の楠公の忠義はかういふものだと理窟  
はいつて居らんけれどもお互ひに濠川神社に感激する  
ことは命を以て忠義を盡してゐる、その真心に感激す  
るのであります。今日に至るまで、明治神宮に絶間な  
く國民が参拜するといふことは全く、明治天皇が御實  
行を以てお示し下されたその御神徳に感激してゐるの  
であります。今申上げたことは僅かな一、二の例に過  
ぎませんけれども、この通り御自分の身を以て實行し  
てお示しになつた、これはかういふわけだ、あゝいふ  
わけだといふことは少しも仰せられずに、どこまでも  
御實行を以てお示しになつたのでありますから、その  
度毎に國民は感激を加へるのであります。兎に角、明  
治天皇に於かせられましては、「天皇に私なし、父母  
なし、妻子なし」といふことを御實行を以てお示しに  
なつてゐる。洵に「天皇絕對、お釋迦さんのいつた  
いふ「天上天下唯我獨尊」宇宙間何物も並ぶものがな  
い、これが日本の 天皇の姿であります。父母といへ  
ども、天皇の御位にお即きになれば臣民となつてお仕  
へ遊ばす。天皇の姿がハッキリ判れば判る程日本の國  
體が判るわけでありませう。それでですから國體即ち 天  
皇、天皇即ち國體である。天皇を餘所にして何の國體  
がありません。天皇は國體の中心であらせられると同  
時に國民の全部である。先刻來申述べましたやうに  
天皇身が中心となつて、その中心から分派して國民を  
現はし國土を現はす。外の國とは全然違つた。天皇身  
の擴大されたものが日本の國民であり、日本の國土で  
ある。これが日本の國體の根本であります。これを以  
て私の講演を終りと致します。(拍手)

學 會 消 息

千里山法律學會

○五月二日 第四十八回例會

自午後三時 學友會館集會室

一、神社行政に就て 會長中谷敬壽先生  
わが大和民族の生活ある所必ずその中心として神社ありその進出ある所また必ず神社の存在を伴はぬと云ふことは無いのであつて我が大日本帝國は謂はれるが如く神國である。

從てわれ／＼日本國民はその常識上神社に對し一應明確な觀念を持つてゐるべき筈であるが現實が果して然りと謂へるかどうかに付ては疑問無きを得ない、從て其處に關心を咬り就中神社とは何ぞやと云ふ問題を學問的本質的に探究せんとすることは我等法律學を修める者にとり蓋し當然のことに屬するであらう。

於茲我が法律學會は恩師中谷先生にお願し「神社行政」に就て先生の御講義を拜聽することにした。先生は神社の概念就中法制上の概念より神社制度の沿革、神社に對する現行制度の精神に亘る迄、微に入り細をうがつて詳細且つ親切に述べられたので我等拜聽者一同日頃の疑問を一蹴し神社行政に就ての活眼を開くに

至つたが、本年第一回目の意義深い例會であつた。

○五月十七日 第四十九回例會

自午後三時 學友會館集會室

一、民法中所謂浮動的状态に於ける催告制度に就て 會員 岡島省三君  
本會正會員である君がその學友會懸賞の入賞論文に一層研究を重ねられた上の研究發表であつて君は法律生活に於ける法律關係の不確實な状態の内特に當事者の一方が形成権を有するも其行使無きに基く場合たる所謂浮動的状态に付其意義を明らかにし且つ民法中に散在する之に關する規定(例一一四條)を捉へ共に共通なる確定方法たる催告制度に付綜合的研究を積まれたのである。而して茲に所謂催告權も亦形成權の一種なる結果主として形成權一般に付ての問題即ち其發生原因、相續、讓渡、時效、除斥原因、行使方法、相手方、其效果、派生的特質、催告に類似するも區別すべき他との比較乃至、相當なる期間等に亘りて各法條に付注意すべき點を詳細に擧げられ本制度に付て君の日頃研鑽の蘊蓄を傾けられたことは何者にも代へ難い嬉しい限りであつた。

△尙當日は例會終了後昨年高等試験に合格せられた會員吳健一君より「高文應試會員への助言の二三」なる題の下に本年度高文へ臨まれる會員達に對し親切丁寧なる詳細な注意があつた。

○五月二十二日春季總會兼新會員歡迎會

自午後六時 電氣科學館食堂

我が千里山學園に縁の香りと深き春四月遠大な理想を以て入學せられ且つ我が學會に入會せられたる新入會員諸君の前途を祝福する爲の歡迎會を兼ねて第十四回定期總會を電氣科學館食堂にて開く閉會に先立ち靚國の英靈並に皇軍將士に對し一分感謝の黙禱を捧げたる後會に入り中谷會長より承りたる「在るべき學園生活、法律學の研究に付ての持すべき態度、科學的精神の修得」等を取材とした有益なる御教示並に第一線より歸還せられたる特別會員越智弘兄(大學院在學)より承りたる兄の眞摯なる支那の大學觀察談に一同多大の感銘に耽つたのである。

而して會は眞摯なる學徒の集合として自覺の下に終始し從而稀に見る嚴肅裡に會員一同明日への精進を誓つたのである。因みに當日出席せられたる特別會員は次の通りである。

越智弘君、中村毅君、麻植福雄君、内田修君、山下重彦君、雨宮正男君、法

覺豐松君

親睦會

○六月五日

本會の目的の一たる「會員相互の親睦」を一層緊密にすべく我が學園の昇格記念日たる意義深い六月五日我が學會では琵琶湖近江八景巡りを催した。當日午前七時半一同京阪天滿驛に集合、七時五十分發濱大津行直行電車に乗車談笑の花咲き亂れる中に一時間半も瞬く間に過ぎ九時半大津着、我れ／＼より一足先に、御健康優れざるにも拘りませず無理に押して見えておられた中谷會長先生に恐縮しつつ十時發の遊覧船に乗船、石山寺に參詣中には雨に見舞はれたとは謂へ一同意氣軒昂會長先生中心に懇談の花を咲かせ、ユーモア混入の案内係の説明は恰も萬歳師を髣髴させるものあり、又乗合せたる素朴そのもの、如き何處かの百姓一行であらう人々の合唱する民謡等にも微笑を察し得ざる中に三時半三井寺の參詣を終りに本日の入景巡りを終り會員相互の親睦を計る上に大いに寄與するところありしが又一面本日の會合が我れ／＼には永遠に忘れることの出来ないのであらう意義深い何ものかを包蔵したことであらう。

△今や皇紀正に二千六百年、聖戰既に第四年を迎へ内外多事多端の折柄眞に法律學を修める學徒、又修めんとする學徒にとりてもその責務の重大なること蓋し



今日より更に大なるはないであらう。

我千里山法律學會は及ばず乍らこの責務を自覺し認識し以て會長先生始め顧問諸先生の並々な御指導に感謝しつつ先輩諸兄の貴き體驗をば我等自らの體驗としつつ本會の目的たる「法律學の研究並に會員相互の親睦」の爲め微力を盡さんとするものである。

故に眞理の探究と理念の追求に精進しつつある千里山學園の法律學科に籍を置く諸君が本會に對しより積極的に參加協力せられ千里山學園生活に於ける學問的雰圍氣昂揚の一翼たらしむるならば獨り本會にとりての幸であるのみならず實に我が關西大學をして内外、名實、共に關西に於ける私學の雄たらしむる原動力ともなり又推進力ともなり得るに至るであらう。

### 經友會

十五年度經友會は經濟學科生の精神的團結と眞摯な研究を唱導して新學期と共に眞初の計劃に従ひ活潑なる運動を續けてゐる、今日迄の經過を述べ左の如くである。

△總會、四月二十七日神戸會長により總會を招集、中川專任指導教授臨席の下に經過報告、會計報告、事業案を満場一致可決

△合同茶話會、總會に引續き經濟學科生

全員を以て合同茶話會を開催、和氣満つる裡に精神的團結の第一歩を踏出。△國富論解讀會、四月十七日水曜第二時限終了後三十三號教室にて第一回解讀會を開催、爾來毎水曜毎回を重ねること九回（六月十二日）第十章を終了、引續き本學年中繼續す。

△名士招待講演會、五月三日午後七時半より大阪毎日新聞社説委員横山五市氏を招き第一回名士招待講演會を開催會場たる三階集會堂には來聽者を以て立錫の餘地なく盛會であつた。

△課外講座、本年の異色ある試みとして經濟學研究の方法論を中心とする課外講座を開催、第一回磯部教授擔當の「總括的に方法論」については五月十日、第二回赤羽教授擔當「重農學派の方法論」については五月二十四日、それ／＼意義深く終了、續いて第三回（六月）堀經夫講師擔當の「正統學派の方法論」は來る六月二十二日第二時限終了後三十三號教室に於て開催の豫定。

△研究發表會、第一回研究發表會は五月十七日理論經濟學の諸問題を取上げ經三李善熙君の研究發表あり、第二回研究發表會は六月十四日「切符制度」を論じて數名の研究發表討論會あり、更に同二十八日には再び理論經濟學の研究發表會が豫定されてゐる。

尙會誌第二號は七月上旬發行の豫定にてすでに編輯部の全員活動を續けつゝあり對外的には神戸商大（六月十六日）大阪商大（六月二十三日）にそれ／＼會員若干名を派遣研究發表討論會に参加せしむることになつてゐる。かくて經濟學科の全員は歴史的社會的現實を背景として、われ／＼は勉強しなければならぬといふ激しい衝動と意慾の中にひたむきに研學の途を歩みつゝある。

### 商業研究會

商業研究會は此の佳き年、二千六百年を事業と共に過しつゝあり、既に六月の中旬になつた、こゝにその事業を回顧して見よう。

五月十六日 討論會を三十九號教室に於て開催す。長井君の「南洋華僑」と題する研究發表がありそれに付いて討論を行ふ、議論が華僑と日本との關係にまで及び甚だ盛會であつた。出席者三十一名。

五月二十一日 討論會を三十三號教室に於て開催、論題「生産擴充による勞働對策」先づ羽田君が此の問題に附き説明されそれに對して討論を行ふ討論者が多く討論賑盛、時間の經過を忘れる程だつた。出席者三十名。

五月二十七日 午後六時より心齋橋明治製菓に於て新入生歡迎會並春季總會を

開催す。會長森川教授、先輩多數列席の下に盛大に舉行す、會長並先輩の温情なる挨拶及び激勵の詞あり、會は和氣満々の中に進行、餘興も行はれ非常に盛會であつた、最後に學歌齊唱、商業研究會萬歳を參唱後閉會した。出席者四十七名。

五月二十八日 三十四號教室に於て討論會を開催す。和氣君の「圓プロット」と題する研究發表があり、これにつき討論を行ふ、絶問なく討論され有意義であつた。出席者二十五名。

五月三十日 日本生命保險會社を見學人員三十六名、統計、分類、會計事務等これが人手によらず機械によりなされてゐること即ち「勞働の器械化」を目のあたりに見て驚いた、案内の人と一室にて懇談をなし、有意義な見學を了へた。

六月三日 討論會を三十三號教室に於て開催す、赤穂君の「インフレーション」と題する研究發表があり引續その討論を行ふこの問題は興味を引きインフレーション對策について議論迫中盛會であつた。出席者三十六名。

六月五・九日 我々が念願の記念植樹の作業を行ふ、二千六百年記念並に學園美裝、綠化の目的をもつて、休日を利用して全會員の勤勞奉仕により作業を行った

### 東亞研究會（専門部）

五月十三日（月）

本年度第一回討論會を午後三時より三十九教室に於て開催す。演題は左の通り

一、「華僑」について商三 楠崎 優  
新學期初めての討論會にて新入會員の多數出席あり出席者三十三名

五月二十一日(火)

歐洲戰亂匪なる現今、東西研究會は時局に即して第一回座談會を「歐洲動亂と東亞問題」と題して全會員出席の下に開催す。

議論百出絶える所を知らず相互に世界情勢に關する認識を深め得たことは大なる收獲であつた。

五月二十七日(月)

定例支那語講座開催、於第三十九教室講師缺員中とは云へ特別會員吉武喜久雄君の堂に入つた指導により圓滑に支那語を學び得ることを欣快とする。且熱心なる新入會員諸君が支那語の研究に精進せられる態度は稱讚の外なし。

五月三十日(木)

第二回討論會を開催す於第三十三教室論題「新中央政府機關の内容とその解説」河本君の出題に對し座談的に討論し本會初の激烈なる討論會であつた。本會の面目躍如たるものあり午後四時四十分散會す。

六月五日(水)

本學の昇格記念日を利用して會員相互の親睦を計るためハイキングを舉行す  
六月六日(木)

放課後午後三時より扇町公園に於て商業研究會對東亞研究會の野球試合を舉行す。初夏の下雨軍選手熱闘を展開本會善戦せしも十三對九にて惜敗す、  
バツテリ、中井、相根、津村

六月十日(月)

第二回支那語講座開講於第三十九教室松下君の流暢なる支那語は本會の誇りとする所なり。本會の最大の目的たる支那語の講座は益々充實發展の途上にあり 出席會員三十二名 四時半終了  
參加會員二十五名

### 英文學研究會

(専門部)

第一回總會

學術研究會聯盟の一部門として、本年二月發會式を擧げたる。本會は、會長片岡教授の御指導の下に顧問として田邊清市教授、山田松太郎教授、河村宜介教授を推戴し、着々その基礎を固め、新學年開始と共に、委員の充實、會則の改正を行ひ、次で第一回總會を五月十二日甲山神院寺の一室に於て開催した。新緑に包まれた明るい山寺の一室、満開の躑躅を愛で、老鶯の聲を聞きつゝ、會長片岡先生と共に、一同膝を交へての懇談に移れ

ば、片岡先生よりの種々有益なる御話を始め、教授課目に對する希望、會員相互の討論等、話題は中々盡きなかつたが、午後二時過ぎ寺を辭し、それより一同苦樂園口まで燦々たる五月の陽光の中を散策して、誠に有益なる一日を送つた。

第一回例会

次で第一回例会を五月十五日(水曜日)第二時限に第一學年教室に於て開催、原田委員長よりの経過報告の後、會長片岡教授より「英詩の傳統について」と題する御講演があり、一同熱心に傾聴して、意義ある一時間を終つた。尙時間の都合で次面に持越されたが、第二回例回より各學年有志による研究發表を行ふ豫定である。

### 基督教青年會

(千里山)

五月十日午後四時より豫科十教室にて山本一清博士を迎へ學内講演會を開いた  
五月十九日午後七時より大阪島ノ内教會にて學生講演會が持たれた。同教會聖歌隊の美しきコツピアにつゞき學生の熱烈なる講演があつた。本學より本田當日講演した。まことに學生らしき惠まれたる集會であつた。參會者約五十名。

五月二十二日 この日東京より同盟總主事たる齋藤惣一先生を迎へ學生宗教講演會を島之内教會にて開催された。本學

本田君の司會にて開會され學生聖歌隊のコワイヤの美しいメロディーに心を靜め學生の熱ある講演につゞき齋藤先生の力強き御獎勵にて一同大いに敬へられる所があつた。感激の内に九時終了した、參會者百二十名盛會であつた。

先に發表致しましたパンフレット「學友への喚び」出来上りました御希望の方は本田(法三) 中川(法二)迄御申込下さい。進呈致します。

### 基督教青年會

(專二)

ペンテコステも過ぎ爽やかなる初夏を迎へました。私達二部Y・N・C・Aは毎月一回集會禮拜して交誼を致して居ります先月拾七日本年度第二回の集會をもち又本月は二十一日となつて居ります。

尊き神の恩寵は此の私達を強め無限の愛を以て常に導き給ふ事を心から感謝と共にイエスのクリストなる事を立證し眞に地の鹽、世の光としてあらねばならぬと思ひます且本學園に基督者は大なる使命がある筈です、同信の友親愛なる兄弟よ、眞の碎けたる清き心を以て主の御名に於て一致し互に勵まし合ひ信仰を深め學生の眞使命に進んでまいり度と思ひます。

愛する學園の同信の友よ、又求められの方よ、私達は御待ちして居ります。

# ス・ポ・ー・ツ 關大...

## 野 球 部

### 關西六大學リーグ戦優勝

昨年春秋共に第四位に落ち野球部創立以来の不成績にて關係者一同を失望させた此の期本年は是非にも優勝せんと三月以来猛練習を重ね例年の如く對明大定期戦の爲め上京し主戦投手三木は不調の爲め山根にたよるも球質好く後半にくずれ安く明大、早大に二敗し終つたが投手一人では好成績は望まれぬ處であつた、引續き關西六大學リーグ戦は開幕され新人投手黒井の調子良く同大商大に各一敗せしもこの時丁度立命同大本學は同率となり優勝チームは倒れたが興味深きものとなり同大は京大に一敗し二位となり、立命は本學に二敗し三位となり本學は首位になる。残る對京大戦は一敗せば再び同大と同位になるを幸ひ京大に二勝し優勝は確定せり。

尙立命一回戦は黒井の好投に樂勝せしも二回戦は一回の表に五點を先取され投手黒井は山根と變り、其後山根は二點をゆるしたのみにて本學は九點を取り試合終了したのは七時二十分と云ふボールの見え

ぬ時間まで熱戦を演じた程の試合で、戦ひ終りのサイレンと共に選手一同感激の余り涙して喜んだ、ここで本學の優勝は九分通り確定せり。

此の日の本學諸君の御聲援は我々の力をより以上高め下さつたものと厚く御禮申し上げると共に、今秋は精神の統一と打力の確實に努力し必ずや全勝を期す覚悟であります。

### 對關學第一次試合 四月十四日

關大 3 3 0 1 0 0 0 1 0 0 1 8  
關學 1 0 0 0 0 1 2 0 0 0 4

### 對同志大學第一次試合 四月廿八日

關大 0 0 1 2 1 0 0 0 0 0 4  
同大 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1

### 對同志社大學第二次試合 四月廿九日

關大 1 0 0 0 0 0 0 0 2 2 3  
同大 1 0 0 0 0 0 0 0 1 2 4

### 對神戸商大第一次試合 五月十一日

關大 0 0 0 1 0 3 1 0 0 0 5  
商大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

### 對神戸商大第二次試合 五月十二日

關大 0 0 1 0 0 1 1 0 0 0 3  
商大 0 0 0 0 0 3 0 0 1 1 4

### 對立命第一次試合 五月十八日

關大 0 1 2 2 0 1 0 1 0 1 0 7  
立命 0 0 1 0 0 0 0 3 1 0 0 5

### 對立命第二次試合 五月十九日

關大 0 0 0 1 0 2 4 2 1 A 9 A  
立命 5 0 0 1 0 1 0 1 0 0 0 7

### 對關學第二次試合 五月廿二日

關大 2 0 0 1 0 0 0 0 0 A 3 A  
關學 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 1 2

### 對京大第一次試合 五月廿三日

關大 0 0 0 2 0 1 1 0 0 0 4  
京大 0 0 0 0 1 0 2 0 0 0 3

### 對京大第二次試合 六月一日

關大 0 2 3 1 0 0 0 0 0 0 6  
京大 0 0 1 0 0 0 0 0 2 0 3

## ホツケイ部

### 春季關西學生リーグ

今春迄で堂々四連覇を遂げ、關西ホツケイ界の王者を誇つてゐたホツケイ部は今春優秀部員多數を得、新學期と共に千里山に合宿猛練習を續け、去る五月五日開幕された、春季リーグに駒を進めたのである、戦績を辿ると、

### 第一回戦 對三高戦

高校スピリットの意氣で眞向より突込む三高に前半やゝ、あせり氣味であつたが長く傳統の強味を發揮、後半に堂々擊破

### 第二回戦 對神戸商大戦に臨んだ。

リーグ開幕二週目調子が出て来たフォ

ドその巧妙な、ステイツク、ワークを以て之をワンサイド、ゲームで敗りリーグ最終試合、無敗同志の京大と、拾九日對戦したのである。

### 第三回戦 對京大

前半、十五分敵フォード細かいプレイにより一點を先取、二十分關大H.C.天野單身ドリブル、堂々一點を挙げ、一對一にて前半を終り、後半兩軍長く攻め長く守り、零對零で終り、延長となるに及び春季の覇權を賭して死闘三十分、遂に引分今春の覇權は秋季迄で預りと決定、涙を呑んで退場したのである。

### スコア

關大 4 — 2 三高  
關大 13 — 0 商大

關大 1 — 1 京大

### 尙當リーグメンバー

木山利木 本 井野村 邊沼下  
八片水久 塚吉 藤天井 田飯山  
R.W. I.C.I.W. R.H.C.H.  
R.F.L.L. R.H.L.H.  
R.L.G.K.

### 夏季シーズンのスケジュール

七月十四日 對東京商大(於大阪)  
七月二十、二十一日 全國高專大會關西代表として出場(於東京)

八月下旬—九月下旬 名古屋定例夏季合宿練習

東亞大會ホツケイ競技に全日本代表選手として現役より、天野主將、O.B.より



村木先輩選抜されて出場と決定、

六月十六日 (於花園運動場)

全日本對在留全外人

### 弓道部 (千里山)

○第二回對高野山大學定期戰

五月十一日 於本學道場

六人立

本學 70—65 高野山大學

○關西學生弓道聯盟大阪ゾーン二部

五月十二日 於阪大道場

八人立

第一位 天理外語 八十五中

第二位 神戸高工 八十二中

第三位 大阪帝大 七十中

第四位 本學 六十五中

第五位 浪速高校 六十一中

第六位 大阪外語 四十五中

### 射撃部 (千里山)

六月二十六日 (日) 午前三支部對抗第

一次豫選大阪方面、於城南射撃場本學當

番校に當り多忙なるも左の成績を挙げ、

三宅 (商三) 73點 第一位入選

片岡 (商三) 71點 第二位入選

養父 (法三) 58點 第十一位入選

十發連射續撃限秒八分 三〇〇米

黒色固定照頭的 (以下同じ)

全日午後全上第二次豫選

片岡、三宅兩君一次豫選に一、二位入選せるも第二次豫選にて惜くも豫備員となる。

養父 (法三) 73點第二位入選 (第一位

73點同大荒木 關西支部軍副將となる。

七月二日 (日)

全日本學生射撃聯盟主催、關西、關東

東海、三支部對抗戰

於大阪府高槻陸軍射撃場

關東、東海の雄を堂々迎へ撃ち關西軍三

連覇をとげ海軍大臣優勝楯を獲得す。

關西支部 六〇二點 優勝

關東支部 五八一點 第二位

東海支部 五五四點 第三位

第二回全日本射撃學生軍對抗戰

(十發十名)

學生軍六〇八—五三五〇・B軍

全關東BO對全關西OB對抗戰 (五發五名)

關東軍二五四 關西軍二三八

{一六一一回戰—一二一}

{一三八—二回戰—一〇七}

### 射撃部 (專門部)

對外語射撃定期戰

今シーズン初の對抗戰たる對外語定期

戰が去る五月十二日大阪城南射撃場舉行

各選手未だ本調子ならざるに不拘長く奮

闘し二百三十三點の驚異的大差を以て快

勝成績左の通り (木村)

第一回戰

關專 248 VS 外語 99

第二回戰

關專 244 VS 外語 160

計

四九二點 VS 二五九點

### フエンシング部

五月十一日 故的場、平岡、辰馬三氏

追悼試合 (主催關西協會)

關西フエンシング界の爲に盡瘁せられ

た三理事追悼の模範試合は大阪YMCA

でしめやかに開催された。我部からは八

尾、山口、溝淵、谷木の四選手を送り、

それぞれエキピション・マッチに活躍す

れば一方木戸前主將も先輩として姿を見

せ健實な刀さばきを以て全日本選手權保

持者の貫録を示し、終始追悼會は和やか

な雰囲気の中に閉會したのであつた。因

みに戦績左の如し

フルール

石西 (同大) 5—3 谷木 (關大)

八尾 (關大) 5—3 福田 (協會)

鈴木 (同大) 5—4 山口 (關大)

木戸 (關大OB) 5—3 溝淵 (關大)

エツベ

木戸 (關大BO) 3—3 福田 (協會)

八尾 (關大) 0—3 足集利 (協會)

サーベル

山口 (關大) 5—4 溝淵 (關大)

木戸 (關大BO) 5—3 濱田 (同大)

五月十四日春季總會於日本一ブラジル

今春至寶木戸好漢木村兩君學窓を去る

に及んで我部は一抹の淋しきを感じたが

素質豊かな新入部員六名を迎へ昔日に優

る賑やかさを加へ、こゝに花々しく新入

生歡迎會を兼ねて春季總會を開催、席上

賀來部長の訓辭は素晴らしい感銘を部員一

同に與へ、更に木戸先輩の昔日談に和氣

宴席に溢れ盛會裡に閉會したのであつた

(新陣 容)

大學部主將 八尾壯比古 (商三)

マネージャー 水間通夫 (法三)

山口吉雄 (法二)

山田秋雄 (二豫一)

木江他美夫 (二豫一)

木村一哉 (二豫一)

松山 博 (二豫二)

谷木邦三 (商三)

溝淵國治 (商三)

横山 寛 (經三)

松本信弘 (經二)

津村好彦 (商二)

古家利喜夫 (商二)

### 拳闘部

四月十四日、於甲子園リング

来るべき東亜大會に備へ、本學より稻田眞智、菊山の三選手を關西豫選に送る。戦跡次の如し。(上記が勝)

オーブン試合

フライ級

楨 (本學) 判定 五味 (關學)

豫選試合

フライ級

柴田 (關學) 判定 眞智 (本學)

ライト級

稻田 (本學) 不戦勝

ウエルタ級

菊山 (本學) 不戦勝

四月二十八日 於甲子園リング

決勝戦跡次の如し。

オーブン試合

安田 (本學) 引分 富島 大日支

決勝戦

ライト級

稻田 (本學) 棄權勝 森 東亞

ウエルタ級

菊山 (本學) 判定 佐藤 (關學)

因みに勝者次の通り。

フライ級 柴田 (關西學院)

バンナム級 手島 (立命館大)

ライト級 稻田 (本學)

ウエルタ級 菊山 (本學)

フエザー級 金本 (YMCA)

全關西アマチュア拳闘聯盟結成十週年記念拳闘大會は五月二十七日甲子園リングにて舉行さる。入場式後、来る東亜大會出場者五名を優秀選手として聯盟側より表彰され記念品受與さる。本學より稻田、菊山、この表彰式に列す。のち引續き試合開始さる。本學選手戦跡左の如し

(上記、勝)

フライ級

楨 (本學) 判定 秋岡 (關學)

フライ級

來田 (後援) 打倒 筒井 (本學)

ライト級

稻田 (本學) 判定 金本 (YMCA)

東亜大會出場資格決勝戦に牧野 (關西學院) を判定に退けた新鋭闘士、金本が

俄然、稻田へ挑戦の申込ありて一戦を闘ふ。一回より稻田のライトフックにつゞ

くレフトストレート功を契し金本後半コ

ナーへ後退、二回、敵のストラッグに備へ

て稻田のカウンターアフックに金本グロツ

キイ氣味、三回に稻田やゝアツバをあ

せりて空打あり。遂に金本を倒し得ず判

定勝となる。

## 山岳部 (専門部一部)

伊吹山登山報告

春季登山を五月三四の兩日に亘り江濃

國境に跨る江州第一の山たる伊吹山に舉行す。

三日午後一時五十分大阪驛發、近江長

岡驛着四時四十五分、其より菜種咲き亂

れる田圃路を約四軒伊吹山麓、春照村瀧

澤旅館に向ふ。

伊吹の全山容落日の榮光を浴びて紫色

に映え頂上に點々とする雪溪と相俟つて

實に美しい、旅館着六時前。

四日雲低く垂れこめ時情たる空模様、

されど全員元氣旺盛、豫定通り八時旅館

を出發、頂上目指して進撃を開始す。途

上三の宮神社に鼻竇の武運長久を祈願す

る。一合目を過ぐる頃遂に激しい風雨と

たり咫尺を辨ぜず、唯無我無夢中に急坂

を七轉八起、前進するのみ、其の困難た

るや筆紙に盡くすを得ず。六合目邊りよ

り次第に雨止み、風おさまり吵々たる琵琶

湖がくつきりと浮び上つ

て來た。中腹の高原眼下に

展け關ヶ原を隔てて白雲棚

引く靈仙山が多く峰頭を

兼ねて堂々の隙を張り相對

峙し、比其比嶺の連峰遠く

霞み、其の美觀正に一幅の

名畫なり、深々たる渦巻く

流霧の一帯、奔流の如く、

飛び去り飛び來り足下を襲

ふ。豪壯と云はうか雄大と

云はうか、この間辯せむと欲してすでに言を忘る。

十一時過雪溪を横斷し海抜一、三三七

米の頂上に安着す。日本武尊の尊像を拜

し測候所附近を見學後小屋に入り休憩す

る。併し殘念ながら天候再び悪化し剩へ二

十余米の烈風を伴ひ風速全く利かず失望

の念甚だ大なり。

氣温は刻々と下り風雨益々強し、され

ど意氣益々軒昂たり、一時過き防禦防水

具に身を固め下山の途につく、途中歩行

難澁を極はむも全員一致協力、三時過ぎ

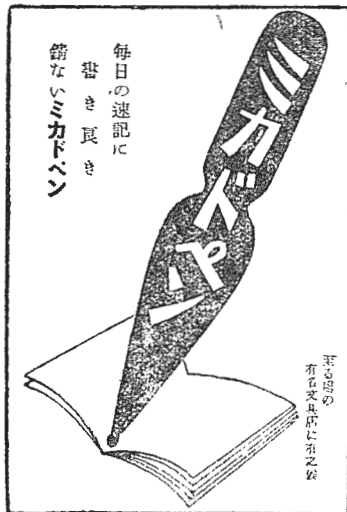
無事旅館に到着す、小憩後近江長岡驛に

向ふ同驛發五時二十分、大阪着八時七分

参加者、小島、村上、川端、澤田、松村

松田、田中、宇都宮、以上

右責任者 小島 猛



# 新刊素描

越智弘

河合榮治郎編 日本評論社刊

## 學生と歴史

かつては書齋の閑文字であり、應接間に鎮座する裝飾ともなつてゐた教養は今や凡ゆる創造に携はる人々の不可缺の條件と化し、新たな建設の爲に深遠なる東洋と豊饒な西洋を蒐めて世界新秩序の素材としようとしてゐる現代日本の創造的實踐の宏大な要求の前に愈々痛烈な現實の問題となつて我々に突ツけられてゐるのである。かような時代に際會する吾々が先づはと思ひ出すものは歴史であり、時代の影像であるが、それは同時に社會事象を巧に捉へた批判の累積でもある。この意味に於ける歴史は決して單なる事實の羅列ではなく、それは鋭い批判のメスの動きの裡に醸成された時代の精神の集合となり、更に一轉してそれを現代に生き長らへしめてゐる創造の決意の一形象でもあると言ふことが出来よう、我々はこの故に歴史を探ね、それを動かした先覺に祈る。

我々の探し求めてゐた歴史はこのような一新した面目を以て現れ出たのはつい最近のことであるが、河合榮治郎編『學生と歴史』はこの試みを社會科學の分野に適用しようとする綜合的述作である。主編者河合教授を茲に引出して語ることは今更の感なしとしないけれども、本書に寄せられた今日の氏の立場を築く綜合的讀史の跡を物語る「歴史への關心」は應々にして無根の樹木にも比すべき弊害を伴ない易い社會科學者の思想機構に對する貴き一の示唆を投じた感がある。ミケルアンジェロの羽仁五郎氏は再び「歴史及び歴史科

學」を携へて我々に歴史科學の眞實の姿を示して呉れたし、高坂正顯氏は茲に歴史哲學の基礎を克明に描き出して居られる。「歴史哲學概論」柿本人麿の名著を以て聲名一入高き藤森成吉氏は「歴史の回想」を提示して此要望に報ひられた。

第五部文化科學の諸問題は編者が本叢書の前編「學生と科學」に於ける先約を本書に於て果そうとするものであり、歴史と諸科學の關聯を説き、更に歴史學派に對する檢討の論歩を運ぶ戸田武雄氏の「歴史と諸科學、歴史學派」があり、我々が生き、且つその渦中にある生きた歴史の裡に社會科學の姿を浮き揚らせてゐる。これと共にマックス・ウエーバーを中心とする同氏の「科學と價值判斷」が載せられてゐる。ヘンサムとコールリッヂの譯者であり、かつての烈しい魂の行者であつた鹽尻公明教授は南海の荒波力強く寄せ来る南の國高知から今靜かに自己の體験を通じて惹起したコペルニクスの轉向に托して「社會科學への憧憬」を語つて居られる。

### ……中立法理論の實証的構成……

Ziegler, B. M. - The International Law of John Marshall.

Chapel Hill, 1939.

時代の逆轉毎に云々され、問題として捉へられ來つたアメリカの中立問題、其含有する權利義務を繞る諸問題の歴史的展開の裡に滲む傳統と理論の闘争の見る毎に、その構成的個性乃至は撫育者として、將又その指導者としてのジョン・マアシヤル John Marshall の名は凡ゆる此問題の檢討者のみならず亞米利加憲法史上に於ても不朽である。

マアシヤルがかつて裁判長としてかの國大審院に在つた頃、國際法上の諸問題を含む一九一五の判決が下さ

れてゐるが、彼はその中八五を起草した、それが同時に本書の内容ともなつてゐる。この國の諸慣行を巧に捉へ來つて實證主義的傾向を其判決の中に生かした彼は、この慣行の準繩を失へば自然法的色彩をこの中に採用し、その兩者をも失つたとき彼に依つて採用されるものはグロチウスの後繼者が残した學說であるが、本来の法律學徒でなかつた彼はストーリー判事とワイリアム・スコット卿の知能を巧妙に利用することを忘れたなかつた。然し彼に依つて採用された國際法は普通法の一部であるとする主張は過去の封建主義的理論を一足も進めてゐない。吾々はマアシヤルの下した判決を見るときそれが三つの重要原則を含有してゐることに氣付くであらう、それは憲法上に於ける獨立國家の廣汎なる主權の承認と私有財産權の強調、海洋に於ける中立財産の拿捕の如きこれ等二原則の衝突の場合に捕獲の原則の適用の廣汎なる例外的認容がこれである、彼の廣汎、強力な裁判所のスタツフを以てしても、尙新國家及新政府の承認の如き政治的問題に立入ることを回避してゐる。彼の裁判判決の或ものは今日も未だ眞の萬民法 Jus Cunctium 即ち凡ゆる文明諸國家の普通法とも言ふべきものが存在してゐる點を注意しなければならぬ。それにも不拘國際法理論の現段階にマアシヤルが生活したナポレオン時代のそれと酷似した霧圍氣の襟相を含んでゐるかに見える、茲にも本書の出現の大きな意義がある。

本書はかような立場の下に一七八九年亞米利加が憲法政治を開始して以降、この國の國際法の生活分野に顯れた敗壞の基本をグロチウス、バインケルスフーク、ウアツテル其他の古典國際法理論家の著述を要約しつつ語り、彼自身は勿論、ホイートン、ケント、ストウエル等に依るそれ等の學說の解釋と適用を檢討するのである。尙ほ著者ジイグラアはアムヘアスト大學政治學部助教授である。



編輯餘録

一 學報も今月を以て發刊滿十八年、百八十號を重ねることとなつた。富島専務理事の下に辰巳、森川、霜村の諸先輩が編輯に當られた當時は宛も大學の擴張期に當り大學の宣傳機關として液刺たる意氣が誌面に横溢してゐた。其の後大學の基礎確立とともに誌面が擴大され、内容も豊富となつたが次第に保守的な色彩が濃くなつた。そして論議間は研究論案となり、學報は専ら報導記事を以て彈める様になつて、二分された學報豫算は、寧ろ前よりの物價の昂騰學生並に校友の増加による發行部數の増大は、頁數の削減によつて辻褄を合せる様になつて、疊に於て甚だ手廻りなり物足りなさを覺えるが、今後には質に於てつらなる様に努力するつもりである。

校庭は見違へる程美化された。これは愛校心の發露で、學園の美譽として賞讃されて然るべきである。尙本年もこの運動を繼續して完成を期してゐる。専門部の天六校舎はその環境は學園として相應しいものではなく、教育的な環境とする爲には大學當局に於ても關心されてゐる。専門部第一の商業研究會は率先して之が美化運動を起しこの程勤勞奉仕を以て校門内に記念植樹をなし、霜を加へた事はよろこばしいことである。

勤勞奉仕は一昨年度より始められ、學長始め、學學參加してゐるが、本年は専門部がトップを切つて本月十三、四の二日間淀川新公園の草刈作業を行ひ翌十五日は神武天皇御傍山陵並に體原神宮に參拜した。昨年奉仕作業をした神宮外苑運動場には宛も紀元二千六百年記念與亞競技關西大會が開催され日本軍の壓倒的大勝であつた。學部並に豫料は近く舉行される筈である。

一 校友會誌の創刊を本誌上で豫告したが、用紙の入手難などで發行が遅れてゐる。校友各位からその發行を待望されてゐるが、今暫くお待ち願ひたい。

一 昨年末に發行すべき校友會員名簿は、種々の事情で遅れ、この六月初旬に出來上つた。今度の名簿は全會員を五十音順に配列したので使用に便利であらうが、昨年末には更に年度別の氏名を附録として載せるつもりであるから一層便利になると思ふ。

校友諸氏の中には移轉して住所未詳の向もあり、職業勤勞先の異動や、名簿の誤植もあると思はれる。御氣付の點はお知らせ願つて次の名簿は正確を期したい。

一 學生の母校愛はいつもさる事乍ら校友の母校愛は校友會支部の設立や、支部の活動を通じて逐年顯著になりつゝあることが觀取される。母校はこれから益々よくなると思ふ明るい光明がみとめられるのが此上なく嬉しい。

一 校友會の發展は一に會員各位の限りなき母校愛によるものである。温き御鞭撻を乞ふ。

一 千里山豫科校庭の緑化運動は紀元二千六百年の記念事業として豫科の教授と豫科生徒によつて昨年より着手されてゐるが、豫金された額は既に千數百圓に上り、大阪府都市計費課に依頼して設計を請へ、豫科生徒の勤勞奉仕によつて、木春その事業の大半は竣成し、

一 校友會の紀元二千六百年記念事業たる校友會館の建設は、いよいよ二百名の實行委員を擧げ、近く千餘名の建設委員を擧げ、運動は具體化しつつある。次號には相當成案の發表を見るに至る

一 學生の母校愛はいつもさる事乍ら校友の母校愛は校友會支部の設立や、支部の活動を通じて逐年顯著になりつゝあることが觀取される。母校はこれから益々よくなると思ふ明るい光明がみとめられるのが此上なく嬉しい。

一 校友會の發展は一に會員各位の限りなき母校愛によるものである。温き御鞭撻を乞ふ。

英文學習號  
大阪毎日  
發行所 大阪市南區上本町二丁目  
大阪出版社

大正十一年六月十五日創刊  
昭和十五年六月十五日發行  
大阪東區東區長崎町二丁目十二番地  
編輯兼發行所 神屋敷民藏  
印刷所 谷口印刷所  
大阪市東區長崎町二丁目十二番地  
發行所 關西大學學報局  
大阪市東區長崎町二丁目十二番地  
關西大學  
大阪市東區長崎町二丁目十二番地  
電話 二二七五  
天六學會 大阪市東區長崎町二丁目十二番地  
電話 二二七五  
千里山學會 大阪市外千里山  
電話 二二七五

京都帝大教授  
經濟學博士 蜷川虎三著

# 新刊 漁村對策研究

菊判並製二三八頁 定價 一・七〇

東亞新秩序建設をするにしても先づ日本經濟の再編成こそが緊要な問題として提起され解決せられねばならぬ今日、農山漁村に對する認識は殊更重要性をもつに至つた。然るに漁村に對する認識及政策の研究は餘りにも等閑視されてゐる現狀であり、食糧問題、人口問題の解決の爲にも、且又日本經濟構成に於ける日本水産業の地位を理解すると共にその將來に於ける展望を有つことは國民としての義務であらう。著者はこの方面の權威であり必讀すべき書であると信ずる。

關西大學講師 菊田太郎著

# 新刊 支那經濟概論

菊版上製一八二頁 定價 一・五〇

支那の社會、經濟に對する透徹した識見と周到な知識とは事變處理の有力な一環たる支那經濟の再建設東亞新秩序の形式を翼賛するに絕對に必要であるが、我々國民の之に對する準備は甚だしく不十分である。本書は教授多年の研究の成果にしてその建設的示唆は他の類書を壓してゐる。敢て一讀を薦む。

慶應大學教授  
經濟學博士 金原賢之助著

# 新刊 爲替理論概説

四六判上製二九七頁 定價 一・二〇

爲替相場は如何にして決定されるか、と云ふ問題は古くして又新しい問題であり未だにその解決を見ないのが現狀である。それは爲替相場決定要因に對する見解が實際的な側面と理論的な側面とが相互に關聯なしに取扱はれて來たことに起因する。本書はかく理論的に貧困化せる爲替理論の發展の爲に從來の理論的概要を批判的な見地から歴史的に叙述したもので、初學者研究者の何れを問はず現下の爲替問題に對し、その解決を見出さんとする人々は必ず一讀を要する。

大阪商大助教授 五島 茂著

# 增訂 學術論文の書方

四六判上製二八二頁 定價 二・〇〇

學術論文の書方にはコツがある。殊に經濟・法律・その他社會科學關係のものはそのうだ。誰でもその難しさを痛感し、そのコツを知りたがつてゐる。が、教授も先輩もあえて自分の工房の秘密を洩すことをしない本書はそのコツを具體的な事例を用ひて懇切に解明してある。眞理を探索する學生諸君の座右に是非備へられんことをお薦めする。

大阪長柄中關大西學前  
振替大阪二六二五〇番

# 甲文堂

東京神田錦町一ノ一  
振替東京三七八一番